

# 第3章 ごみ処理の現況

## 3-1 ごみ処理の概況

### 1 ごみ処理体制

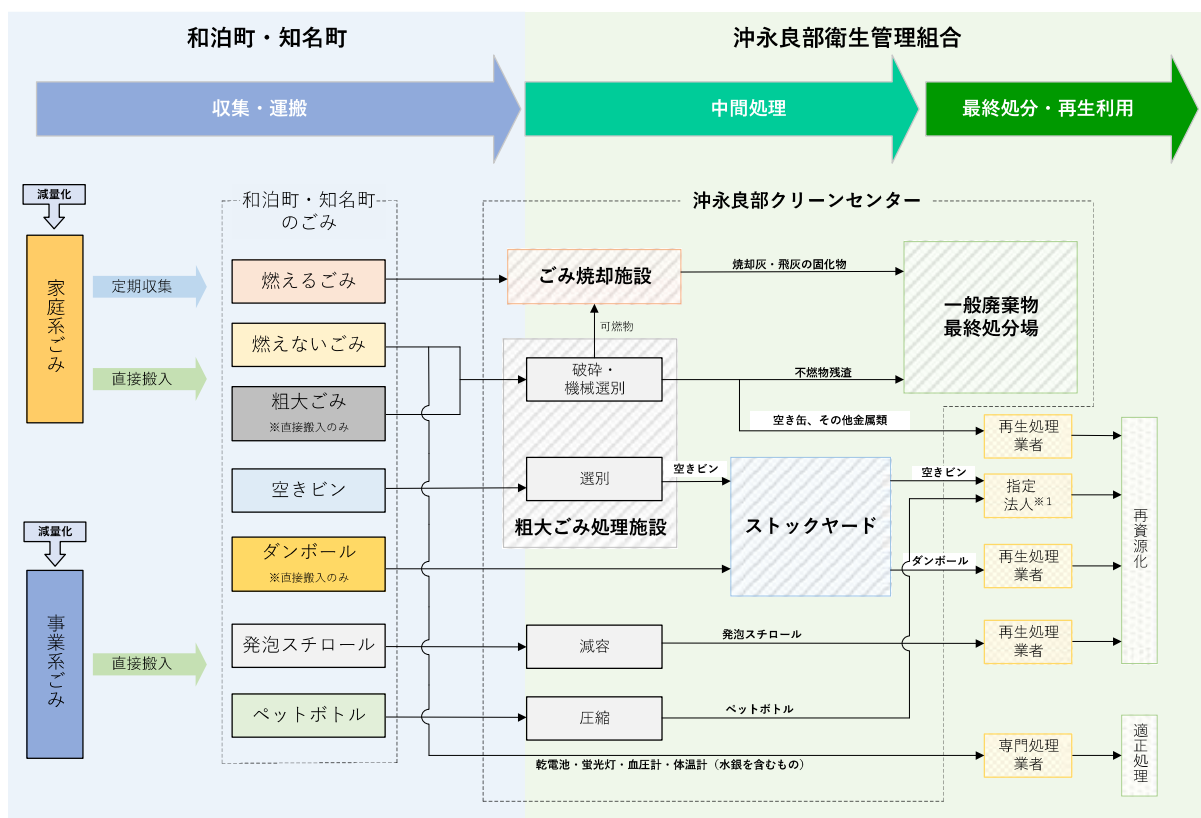
#### (1) ごみ処理体制

ごみの収集・運搬は図表3-1-1に示すように、和泊町及び知名町がそれぞれで実施しており、収集区域は和泊町及び知名町ともに行政区域内全域としています。

ごみの中間処理及び最終処分・再生利用は本組合が実施しており、本組合が管理する沖永良部クリーンセンターのごみ焼却施設、粗大ごみ処理施設及びストックヤードにて中間処理を行い、一般廃棄物最終処分場にて埋立処分を行っています。

資源化物として選別（中間処理後）されたごみは各業者（再生処理業者、指定法人、専門処理業者）へ引き渡し、適正処理及び再資源化を行っています。

◆図表 3-1-1 発生から最終処分に至るまでの各工程における業務分担

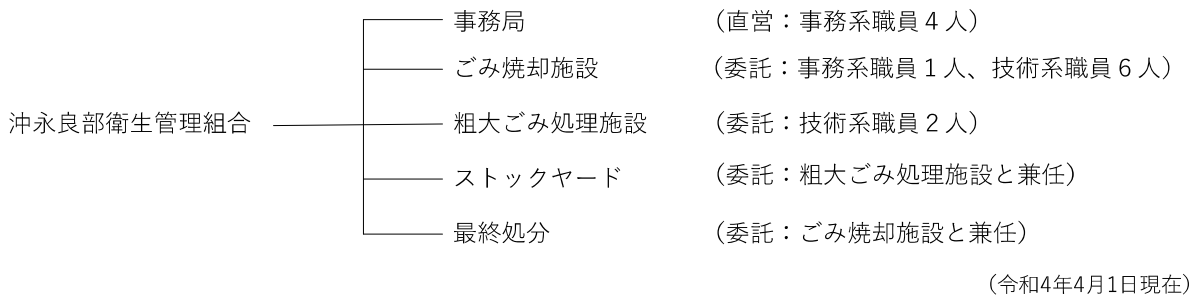


※1：公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会

#### (2) 運営・維持管理体制

本組合におけるごみ処理関係の運営・管理体制は図表3-1-2に示すように、事務局、ごみ焼却施設、粗大ごみ処理施設、ストックヤード及び最終処分場があり、各施設には所要の人員を配置しています。

◆図表 3-1-2 本組合におけるごみ処理関係の運営・管理体制



(3) ごみ処理分別区分

本圏域におけるごみの分別区分を図表3-1-3に、沖永良部クリーンセンターへの持ち込み不可ごみを図表3-1-4に示します。

和泊町及び知名町ともに平成20年度より空きビンの分別収集を開始し、現在の分別区分は燃えるごみ、燃えないごみ、空きビン、ペットボトル、発泡スチロール、粗大ごみ及びダンボールの7品目となっています。なお、タイヤ、バッテリー、LPガスタンク、消火器などの適正処理困難物及び建設廃材や木くずなどの産業廃棄物は持ち込み不可としています。

◆図表 3-1-3 本圏域におけるごみの分別区分

分別のし方	
燃えるごみ	<p>生ごみ・貝がら(小)・雑誌・古本・紙くず・新聞・袋に入るダンボール・衣類・毛布・ぬいぐるみ・クッション・アルミホイル・枯草・落葉・残飯・紙コップ・紙おむつ・履物・まくら・銀紙菓子袋・米袋・木切れ(長さ50cm以下)</p>  <p>弁当箱・オードブル皿・買物袋・カセットテープ・歯ブラシ・歯磨きチューブ・シャンプー・漂白剤容器・プリン容器・革・ゴム製品・ビニールパイプ(袋に入る長さ)・プラスチック製容器</p> 
燃えないごみ (空き缶・その他)	<p>空き缶・ガラス・なべ・やかん・小型コンロ・ガスカートリッジ・包丁・かま・その他袋に入る金属類(農機具の部品等除く。スプレー缶は中身を完全に抜いて穴をあけること)</p>  <p>せともの・傘・小型の電化製品(コードは切取ること)・カメラ・電池・蛍光灯・電球・ワイヤー・ビニールコード・針金・眼鏡・時計・電話機・ライター(釘はバラバラにならないように小袋に入れて指定袋へ)</p> 
空きビン	 <p>空きビンのふたは、はずして空き缶といっしょに出して下さい。中を軽く洗って出して下さい。</p>
ペットボトル	<p>酒類・しょうゆ・みりん・麦茶・ウーロン茶・ジュース・飲料水等容器 (材質表示マーク  のある容器)</p> <p>ペットボトルはフタをはずして中を軽くすすぎ、足でつぶして(袋にたくさん入れるため)出して下さい。</p> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #FFA07A; padding: 2px;">スチロール</p> <p>発泡スチロール容器 発泡スチロール製皿(トレー) 中を軽く洗って下さい。</p>  </div> 
粗大ごみ	<p>家具類(金属ははずすこと)・事業系ダンボール・マットレス(スプリングは、はずすこと)・タタミ・自転車・三輪車・一斗缶(空缶)・ストーブ・電気コタツ・ふとん・カーペット・コンロ・ホットプレート</p> 

※粗大ごみはクリーンセンターへ直接搬入

(令和4年4月1日現在)

◆図表 3-1-4 沖永良部クリーンセンターへの持ち込み不可ごみ

項目	適正処理困難物	産業廃棄物
ごみの例	■タイヤ、バッテリー	■大量の鉄くず
	■LPガスタンク、消火器	■土、石、コンクリート等
	■オートバイ、自動車、ボイラー	■廃材、廃油、引火物
	■生木、青草、農産物の不用品	■農業用廃ビニール、使用済農業容器
		■建設廃材、木くず ■金属くず、家畜の死体 ■その他、事業活動で生じた廃棄物 ※法令により事業者自身の処理責任

(令和4年4月1日現在)

#### (4) 収集・運搬体制

本圏域の収集体制の現況を図表3-1-5に、運搬体制の現況を図表3-1-6に示します。

本圏域における家庭系ごみの収集・運搬は和泊町及び知名町とも委託により行われ、収集方式としてステーション方式を採用していますが、粗大ごみについてはごみ排出者自ら沖永良部クリーンセンターに直接搬入としています。また、事業系ごみについては和泊町及び知名町ともに収集・運搬を実施していないことから、事業者自ら適切な処理を行うか、沖永良部クリーンセンターに直接搬入することとしています。

収集頻度は燃えるごみが週3回、燃えないごみ、空きビン、ペットボトル及び発泡スチロールが週1回となっています。

また、収集ごみ及び直接搬入ごみのすべてを対象として、ごみ処理の有料化を実施していますが、本計画に合わせて料金体系の見直しを行います。

◆図表 3-1-5 本圏域の収集体制

分別区分		収集・運搬体制	収集方式	収集回数	排出容器	標準小売価格
収集ごみ	燃えるごみ	委託	ステーション	週3回	有料指定袋	1袋 (20枚入り)
	燃えないごみ			週1回		大935円(45L) 中620円(30L) 小425円(20L)
	空きビン			週1回		
	ペットボトル			週1回		
	発泡スチロール			週1回		
直接搬入ごみ	燃えるごみ	家庭系ごみ 直接搬入  事業系ごみ 自ら処理するか直接搬入				ごみ処分手数料
	燃えないごみ					家庭系ごみ 50円 / 10kg
	空きビン					粗大ごみ及び 事業系ごみ 100円 / 10kg
	ペットボトル					
	発泡スチロール					
	ダンボール					
	粗大ごみ					

出典：「令和3年度一般廃棄物処理実施計画」(鹿児島県大島郡和泊町)  
「平成29年度一般廃棄物処理実施計画」(鹿児島県大島郡知名町)

◆図表 3-1-6 本圏域の運搬体制

町名	収集車台数			
	直営	委託	許可	計
和泊町	—	2台 (4t/台)	—	2台 (4t/台)
知名町	—	2台 (4t/台)	—	2台 (4t/台)
合計	—	4台 (4t/台)	—	4台 (4t/台)

出典：「令和3年度一般廃棄物処理実施計画」（鹿児島県大島郡和泊町）  
「平成29年度一般廃棄物処理実施計画」（鹿児島県大島郡知名町）

## （5）ごみ処理費用

### ア 定期補修費及び維持管理費

本圏域のごみ処理費用の実績を図表3-1-7に、ごみ処理費用の推移を図表3-1-8～9に示します。

定期補修費は図表3-1-8に示すように、年度によって増減はあるものの経年的に減少傾向にあり、令和3年度は42,680千円となっています。一方、維持管理費は令和元年度に大きく増加し、年度によって増減はあるものの経年的には増加傾向となっており、令和3年度は42,386千円となっています。なお、維持管理費の中では電力費の割合が最も高く、次いで修繕費となっています。また、令和元年度に維持管理費が増加した要因は修繕費が多かったためです。

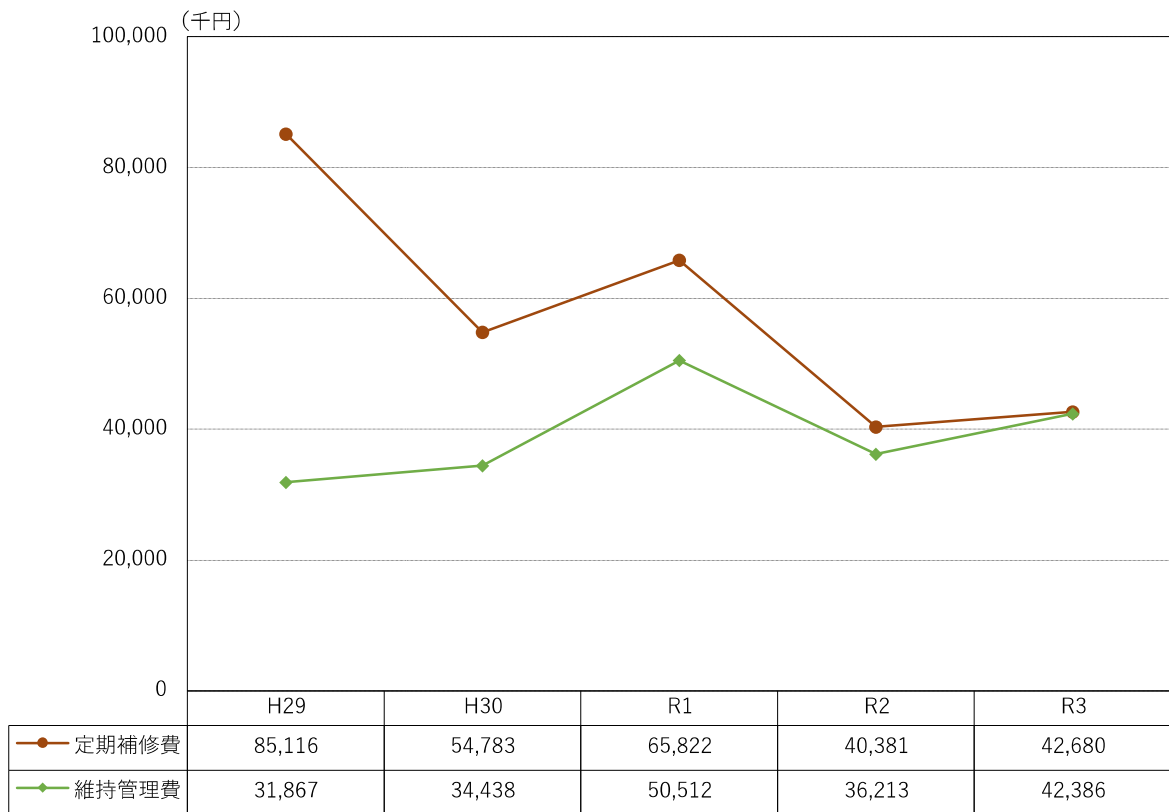
◆図表 3-1-7 ごみ処理費用の実績

単位：千円

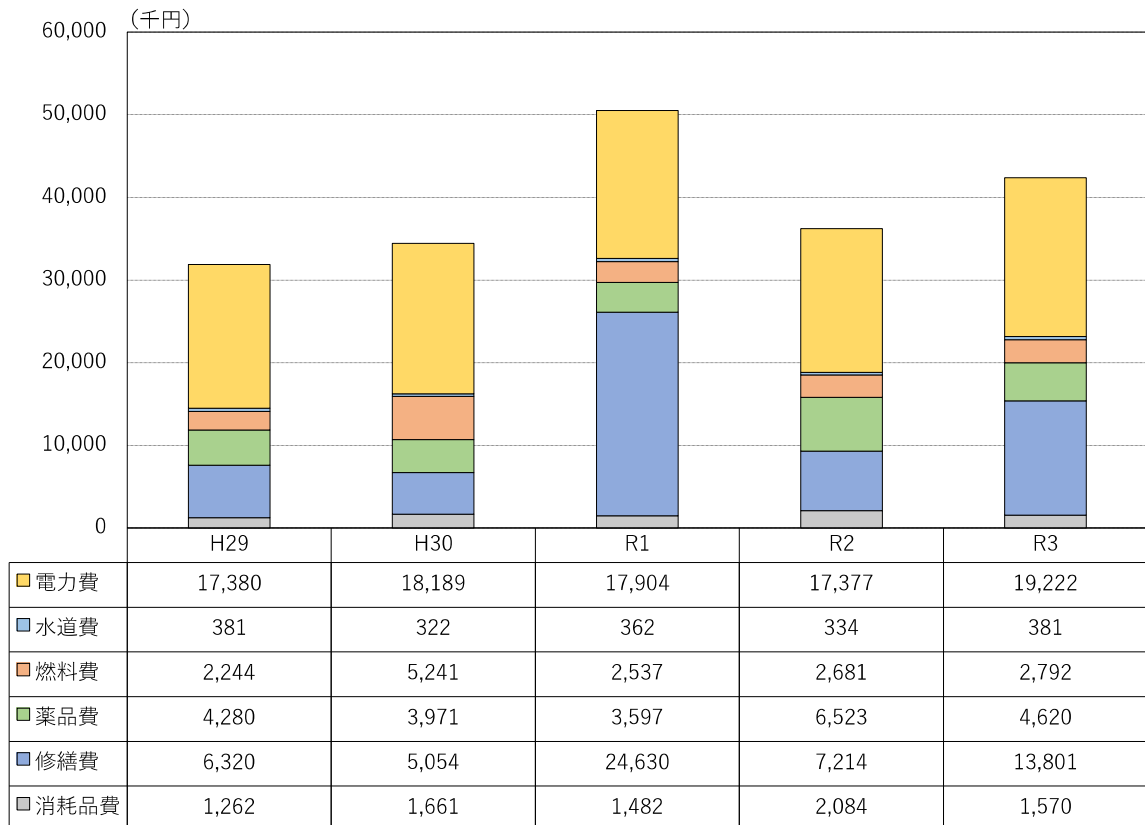
項目		H29	H30	R1	R2	R3
合計 (全施設)	定期補修費	85,116	54,783	65,822	40,381	42,680
	維持管理費	31,867	34,438	50,512	36,213	42,386
	電力費	17,380	18,189	17,904	17,377	19,222
	水道費	381	322	362	334	381
	燃料費	2,244	5,241	2,537	2,681	2,792
	薬品費	4,280	3,971	3,597	6,523	4,620
	修繕費	6,320	5,054	24,630	7,214	13,801
	消耗品費	1,262	1,661	1,482	2,084	1,570
粗大 ごみ 焼却 施設 ・ 処理 施設	定期補修費	85,116	54,783	60,531	40,381	42,680
	焼却	78,134	47,979	56,721	37,620	40,040
	粗大	6,982	6,804	3,810	2,761	2,640
	維持管理費	30,996	34,377	46,599	35,938	37,197
	電力費	17,380	18,189	17,904	17,377	19,222
	水道費	381	322	362	334	381
	燃料費	2,244	5,241	2,537	2,681	2,792
	薬品費	3,861	3,971	3,597	6,523	4,620
	修繕費	5,872	4,993	20,816	6,942	8,641
	消耗品費	1,258	1,661	1,383	2,081	1,541
最終 処分 場	定期補修費	0	0	5,291	0	0
	維持管理費	867	61	3,907	252	4,913
	電力費	共通	共通	共通	共通	共通
	水道費	共通	共通	共通	共通	共通
	燃料費	—	—	—	—	—
	薬品費	419	0	0	0	0
	修繕費	448	61	3,814	249	4,884
消耗品費	0	0	93	3	29	
ストック ヤード	定期補修費	0	0	0	0	0
	維持管理費	4	0	6	23	276
	電力費	共通	共通	共通	共通	共通
	水道費	共通	共通	共通	共通	共通
	燃料費	—	—	—	—	—
	薬品費	—	—	—	—	—
	修繕費	0	0	0	23	276
消耗品費	4	0	6	0	0	

出典：「沖永良部衛生管理組合事務局提供資料」

◆図表 3-1-8 ごみ処理費用（定期補修費・維持管理費）の推移



◆図表 3-1-9 ごみ処理費用（維持管理費）の推移



## イ 歳入及び歳出（ごみ処理コスト）

過去5年間における歳入と歳出（ごみの収集・運搬、処理委託等に必要な年間処理費用）の実績を図表3-1-10に示します。

◆図表 3-1-10 歳入及び歳出の実績

区分	単位	H29	H30	R1	R2	R3
計画収集人口	人	12,557	12,425	12,171	11,996	11,827
世帯数	世帯	6,335	6,299	6,275	6,296	6,223
ごみ総排出量	t/年	3,848	4,086	3,999	4,029	3,996
歳入（一般財源除く）	千円	227,402	221,545	229,385	205,674	207,466
国庫支出金※	千円	0	11,180	0	0	0
使用料及び手数料		29,449	29,283	29,870	30,593	30,442
市区町村分担金		186,700	170,884	180,224	165,324	165,238
その他		11,253	10,198	19,291	9,757	11,786
歳出	千円	227,402	221,545	229,385	205,674	207,466
建設・改良費	千円	0	23,618	0	0	0
工事費		0	23,618	0	0	0
収集・運搬施設		0	0	0	0	0
中間処理施設		0	23,618	0	0	0
最終処分場		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
調査費	0	0	0	0	0	
人件費	千円	33,112	26,778	28,108	27,012	27,630
一般職		33,112	26,778	28,108	27,012	27,630
技能職		0	0	0	0	0
収集・運搬		0	0	0	0	0
中間処理	0	0	0	0	0	
最終処分	0	0	0	0	0	
処理費	千円	130,959	106,165	127,304	87,616	97,113
収集・運搬		0	0	0	0	0
中間処理		129,985	105,997	117,844	87,084	91,918
最終処分		974	168	9,460	532	5,195
車両等購入費	千円	0	0	0	0	0
委託費	千円	63,331	64,984	67,945	75,268	69,065
収集・運搬		0	0	0	0	0
中間処理		61,046	62,810	65,718	73,003	66,773
最終処分		2,285	2,174	2,227	2,265	2,292
その他	0	0	0	0	0	
調査研究費	千円	0	0	6,028	0	0
その他	千円	0	0	0	15,778	13,658

※災害廃棄物処理に伴うもの

出典：「一般廃棄物処理事業実態調査処理状況調査表、71表及び72表」

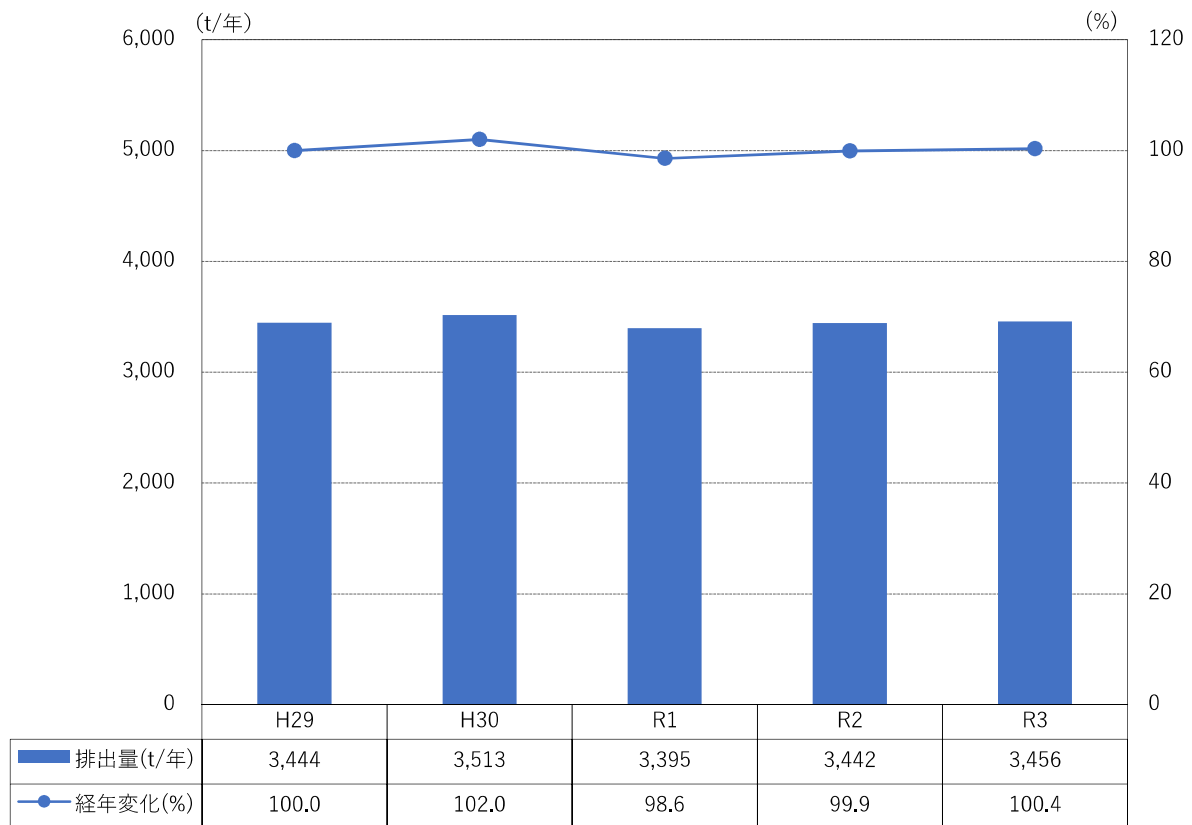
## 2 ごみ処理内訳

### (1) 燃えるごみ

燃えるごみは沖永良部クリーンセンターのごみ焼却施設にて焼却処理を行っています。

平成29年度～令和3年度の本圏域の燃えるごみの排出量の推移及び経年変化を図表3-1-11に示します。なお、本圏域の燃えるごみの排出量は、年度によって増減はあるものの、概ね横ばいで推移しています。

◆図表 3-1-11 燃えるごみの排出量の推移及び経年変化



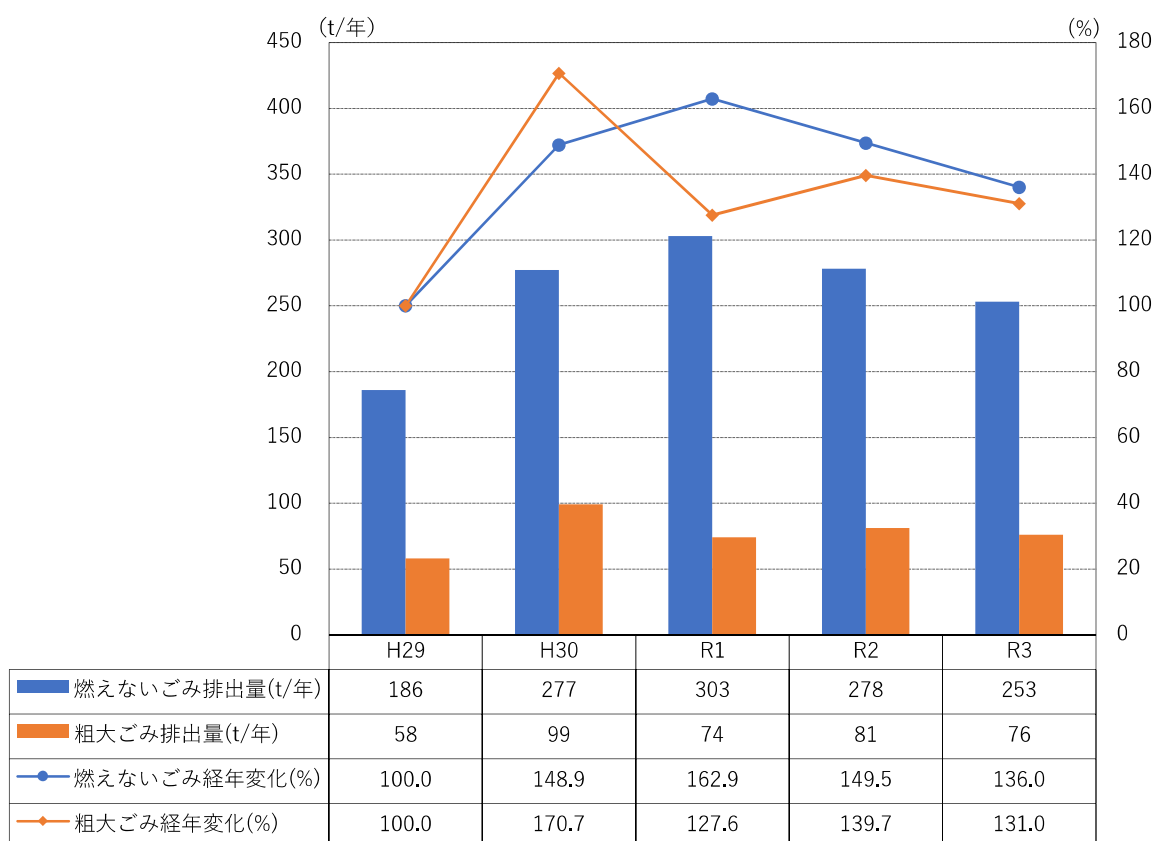
### (2) 燃えないごみ及び粗大ごみ

燃えないごみ及び粗大ごみは沖永良部クリーンセンターの粗大ごみ処理施設にて破碎・機械選別され、空き缶及びその他金属類は再生処理業者に引き渡し、再資源化を図っています。また、可燃物残渣はごみ焼却施設で焼却処理し、不燃物残渣は一般廃棄物最終処分場において埋立処分しています。

平成29年度～令和3年度の本圏域の燃えないごみ及び粗大ごみの排出量の推移及び経年変化を図表3-1-12に示します。なお、本圏域の燃えないごみの排出量は、令和元年度まで増加傾向にありましたが、令和元年度を境に減少傾向に転じています。また、粗大ごみの排出量は平成30年度に大きく増加、令和元年度に大きく減少し、その後も令和2年度で増加、令和3年度では減少に転じており、増減を繰り返しています。



◆図表 3-1-12 燃えないごみ及び粗大ごみの排出量の推移及び経年変化



### (3) 空きビン、ペットボトル・発泡スチロール及びダンボール

空きビンは沖永良部クリーンセンターの粗大ごみ処理施設にて選別後、ストックヤードにて一時保管されたのち指定法人へ、ダンボールはストックヤード内で一時保管されたのち再生処理業者へ、発泡スチロールは減容したのち再生処理業者へ、ペットボトルは圧縮したのち指定法人へそれぞれ引き渡し、再資源化を図っています。

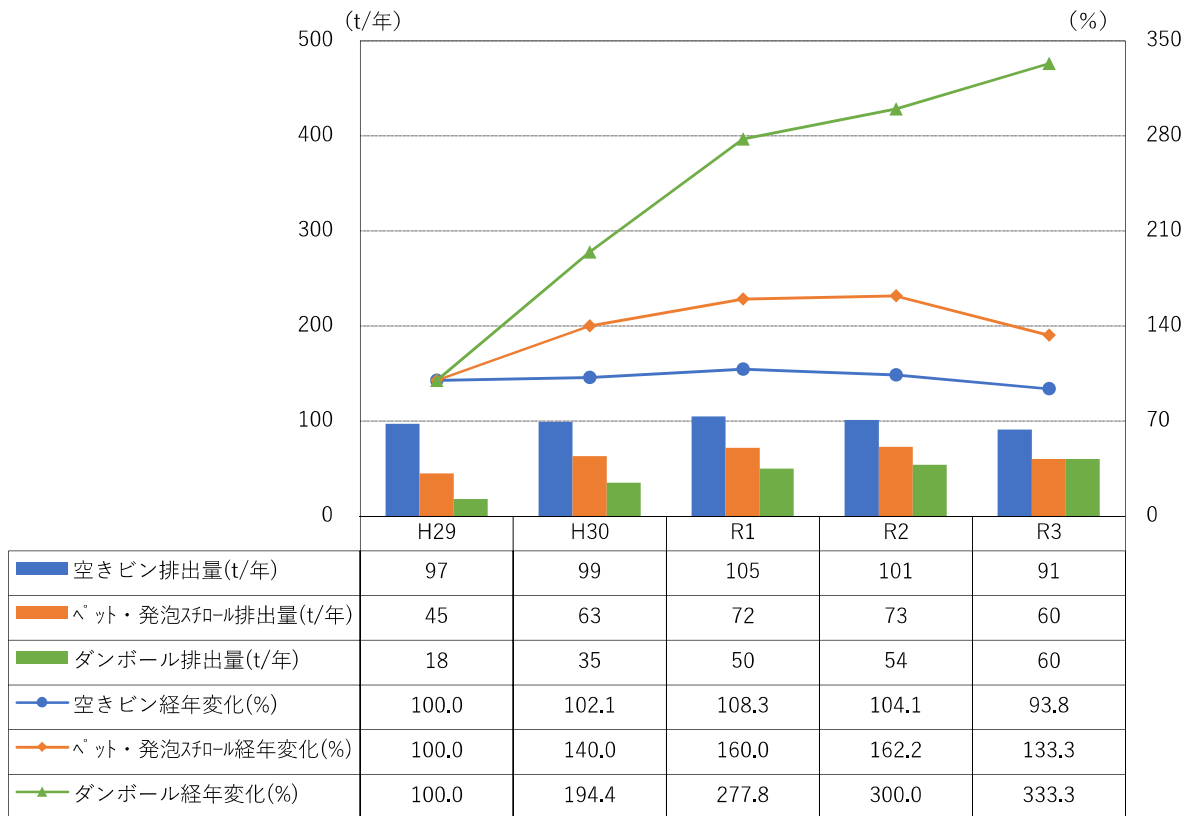
平成29年度～令和3年度の本圏域の空きビン、ペットボトル・発泡スチロール及びダンボールの排出量の推移及び経年変化を図表3-1-13に示します。

ア 本圏域の空きビンの排出量は令和元年度まで増加傾向にありましたが、令和元年度を境に減少傾向に転じています。

イ ペットボトル・発泡スチロールの排出量は令和2年度まで増加傾向にありましたが、令和3年度は減少に転じています。

ウ ダンボールの排出量は増加傾向となっています。

◆図表 3-1-13 空きビン、ペットボトル・発泡スチロール及びダンボールの排出量の推移及び経年変化



## 3-2 ごみ排出量

平成29年度～令和3年度における本圏域のごみ排出量について以下に示します。

### 1 和泊町のごみ排出量

平成29年度～令和3年度における和泊町のごみ排出量の状況を図表3-2-1～5に示します。

#### (1) 収集ごみ

収集ごみは図表3-2-2に示すように、令和元年度までは経年的に増加傾向にありましたが、令和元年度を境に減少傾向に転じています。なお、令和3年度は1,241t/年で、平成29年度（1,298t/年）に対して4.4%（-57t/年）の減少となっています。

#### (2) 直接搬入ごみ

直接搬入ごみは図表3-2-2に示すように、平成30年度に増加し、令和元年度に減少した後は増加傾向に転じています。なお、令和3年度は876t/年で、平成29年度（732t/年）に対して19.7%（+144t/年）の増加となっています。

#### (3) ごみ排出量

ごみ排出量は図表3-2-2に示すように、平成30年度に増加後、横ばいで推移しています。なお、令和3年度は2,117t/年で、平成29年度（2,030t/年）に対して4.3%（+87t/年）の増加となっています。

また、令和3年度におけるごみ排出量に占める割合は収集ごみが58.6%、直接搬入ごみが41.4%で、ごみ排出量に占める燃えるごみは86.3%（収集ごみ：52.8%、直接搬入ごみ：33.5%）となっており、大半を占めています。

◆図表 3-2-1 和泊町のごみ排出量

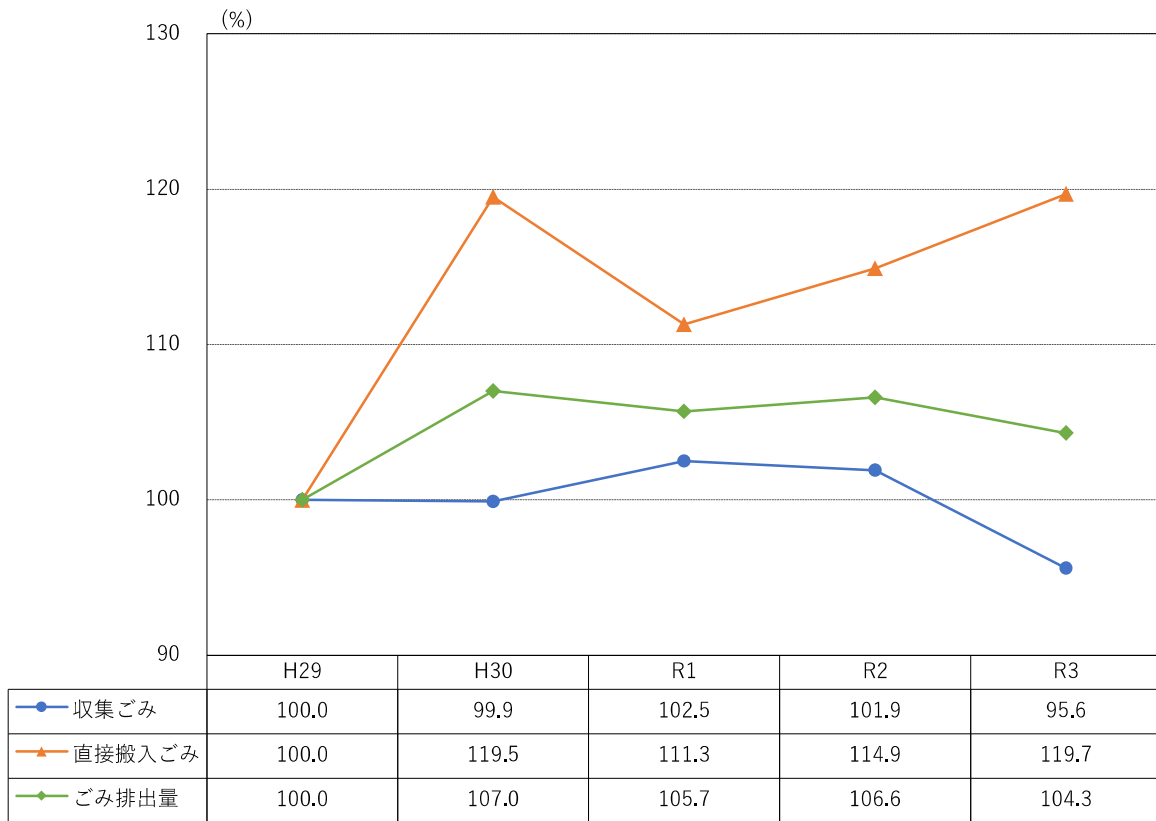
単位：t/年

項目	H29	H30	R1	R2	R3	R3-H29 (増減率)	
人口 (人)	6,576	6,510	6,384	6,299	6,216	▲ 360 ▲ 5.5%	
収集ごみ	燃えるごみ	1,298 (64.0%)	1,297 (59.8%)	1,330 (61.9%)	1,323 (61.1%)	1,241 (58.6%)	▲ 57 ▲ 4.4%
	燃えないごみ・空き缶・その他	1,187 (58.5%)	1,178 (54.2%)	1,179 (54.9%)	1,181 (54.6%)	1,117 (52.8%)	▲ 70 ▲ 5.9%
	空きビン	56 (2.8%)	58 (2.7%)	70 (3.3%)	66 (3.0%)	62 (2.9%)	6 10.7%
	ペットボトル・発泡スチロール	36 (1.8%)	36 (1.7%)	46 (2.1%)	43 (2.0%)	40 (1.9%)	4 11.1%
直接搬入ごみ	ペットボトル・発泡スチロール	19 (0.9%)	25 (1.2%)	35 (1.6%)	33 (1.5%)	22 (1.0%)	3 15.8%
	粗大ごみ	732 (36.0%)	875 (40.3%)	815 (38.1%)	841 (39.0%)	876 (41.4%)	144 19.7%
	燃えるごみ	638 (31.4%)	701 (32.2%)	617 (28.8%)	645 (29.8%)	709 (33.5%)	71 11.1%
	燃えないごみ・空き缶・その他	48 (2.4%)	88 (4.1%)	115 (5.4%)	105 (4.9%)	83 (3.9%)	35 72.9%
	ペットボトル・発泡スチロール	2 (0.1%)	6 (0.3%)	8 (0.4%)	8 (0.4%)	5 (0.2%)	3 150.0%
ダンボール	33 (1.6%)	56 (2.6%)	43 (2.0%)	47 (2.2%)	44 (2.1%)	11 33.3%	
ごみ排出量	2,030 (100.0%)	2,172 (100.1%)	2,145 (100.0%)	2,164 (100.1%)	2,117 (100.0%)	87 4.3%	

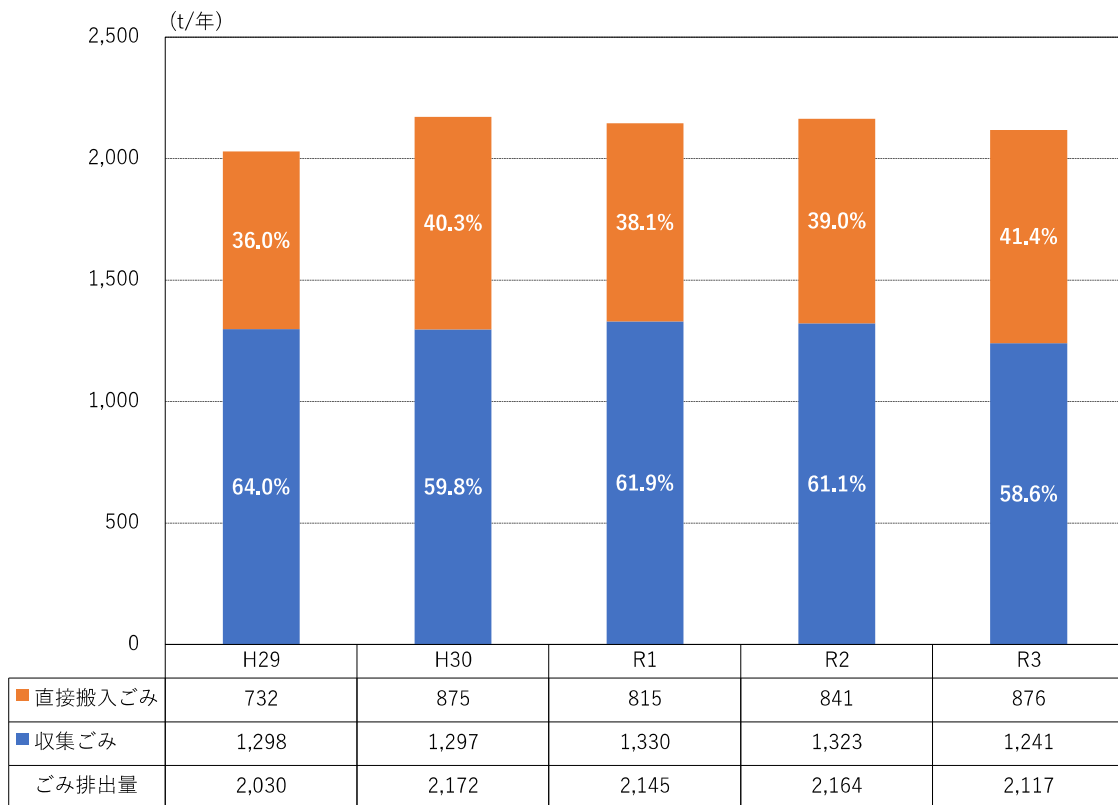
※1：人口は各年度ともに3月31日現在

※2：端数処理のため合計値が100%にならない場合があります。

◆図表 3-2-2 和泊町のごみ排出量の経年変化

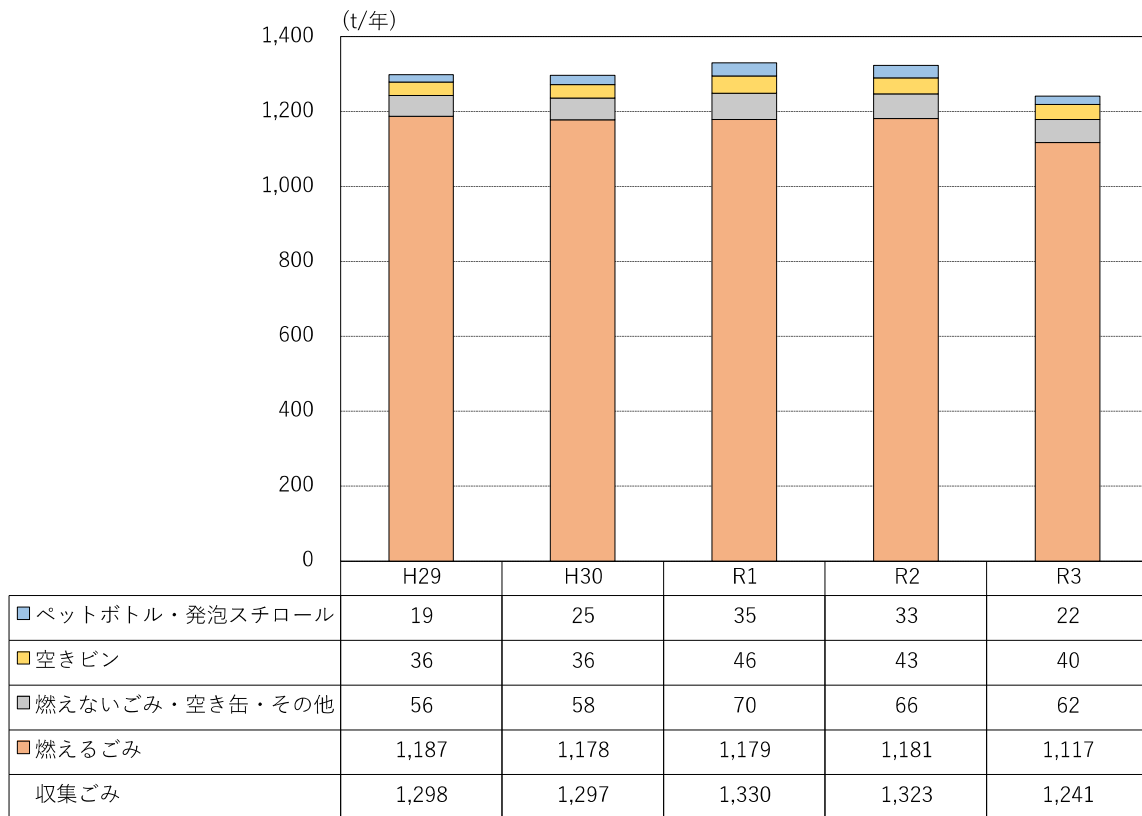


◆図表 3-2-3 和泊町のごみ排出量の内訳

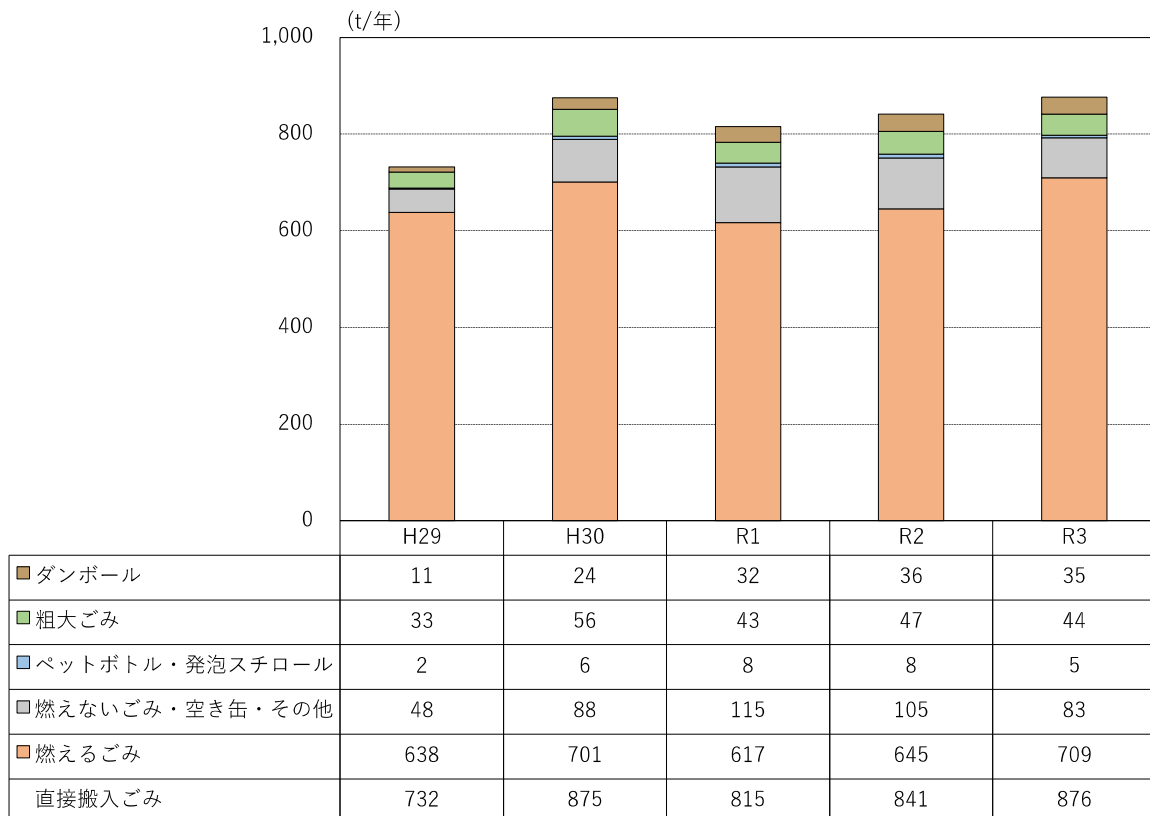


※端数処理のため合計値が100%にならない場合があります。

◆図表 3-2-4 和泊町の収集ごみ種類別排出量の推移



◆図表 3-2-5 和泊町の直接搬入ごみ種類別排出量の推移



## 2 知名町のごみ排出量

平成29年度～令和3年度における知名町のごみ排出量の状況を図表3-2-6～10に示します。

### (1) 収集ごみ

収集ごみは図表3-2-7に示すように、平成30年度は横ばいで推移し、平成30年度を境に減少傾向となっています。なお、令和3年度は1,247t/年で、平成29年度（1,327t/年）に対して6.0%（-80t/年）の減少となっています。

### (2) 直接搬入ごみ

直接搬入ごみは図表3-2-7に示すように、平成30年度に増加し、令和元年度に減少した後は増加傾向に転じています。なお、令和3年度は632t/年で、平成29年度（491t/年）に対して28.7%（+141t/年）の増加となっています。

### (3) ごみ排出量

ごみ排出量は図表3-2-7に示すように、平成30年度に増加し、令和元年度に減少した後は横ばいで推移しています。なお、令和3年度は1,879t/年で、平成29年度（1,818t/年）に対して3.4%（+61t/年）の増加となっています。

また、令和3年度のごみ排出量に占める割合は、収集ごみが66.4%、直接搬入ごみが33.6%で、ごみ排出量に占める燃えるごみは86.8%（収集ごみ：58.8%、直接搬入ごみ：28.0%）となっており、大半を占めています。

◆図表 3-2-6 知名町のごみ排出量

単位：t/年

項目	H29	H30	R1	R2	R3	R3-H29 (増減率)		
人口(人)	5,981	5,915	5,787	5,697	5,611	▲ 370 ▲ 6.2%		
収集ごみ	1,327 (73.0%)	1,333 (69.7%)	1,290 (69.6%)	1,272 (68.2%)	1,247 (66.4%)	▲ 80 ▲ 6.0%		
	燃えるごみ	1,188 (65.3%)	1,175 (61.4%)	1,145 (61.8%)	1,124 (60.3%)	1,104 (58.8%)	▲ 84 ▲ 7.1%	
	燃えないごみ・空き缶・その他	57 (3.1%)	67 (3.5%)	61 (3.3%)	62 (3.3%)	63 (3.4%)	6	10.5%
	空きビン	61 (3.4%)	63 (3.3%)	59 (3.2%)	58 (3.1%)	51 (2.7%)	▲ 10	▲ 16.4%
ペットボトル・発泡スチロール	21 (1.2%)	28 (1.5%)	25 (1.3%)	28 (1.5%)	29 (1.5%)	8	38.1%	
直接搬入ごみ	491 (27.1%)	581 (30.3%)	564 (30.5%)	593 (31.8%)	632 (33.6%)	141	28.7%	
	燃えるごみ	431 (23.7%)	459 (24.0%)	454 (24.5%)	492 (26.4%)	526 (28.0%)	95	22.0%
	燃えないごみ・空き缶・その他	25 (1.4%)	64 (3.3%)	57 (3.1%)	45 (2.4%)	45 (2.4%)	20	80.0%
	ペットボトル・発泡スチロール	3 (0.2%)	4 (0.2%)	4 (0.2%)	4 (0.2%)	4 (0.2%)	1	33.3%
	粗大ごみ	25 (1.4%)	43 (2.2%)	31 (1.7%)	34 (1.8%)	32 (1.7%)	7	28.0%
ダンボール	7 (0.4%)	11 (0.6%)	18 (1.0%)	18 (1.0%)	25 (1.3%)	18	257.1%	
ごみ排出量	1,818 (100.1%)	1,914 (100.0%)	1,854 (100.1%)	1,865 (100.0%)	1,879 (100.0%)	61	3.4%	

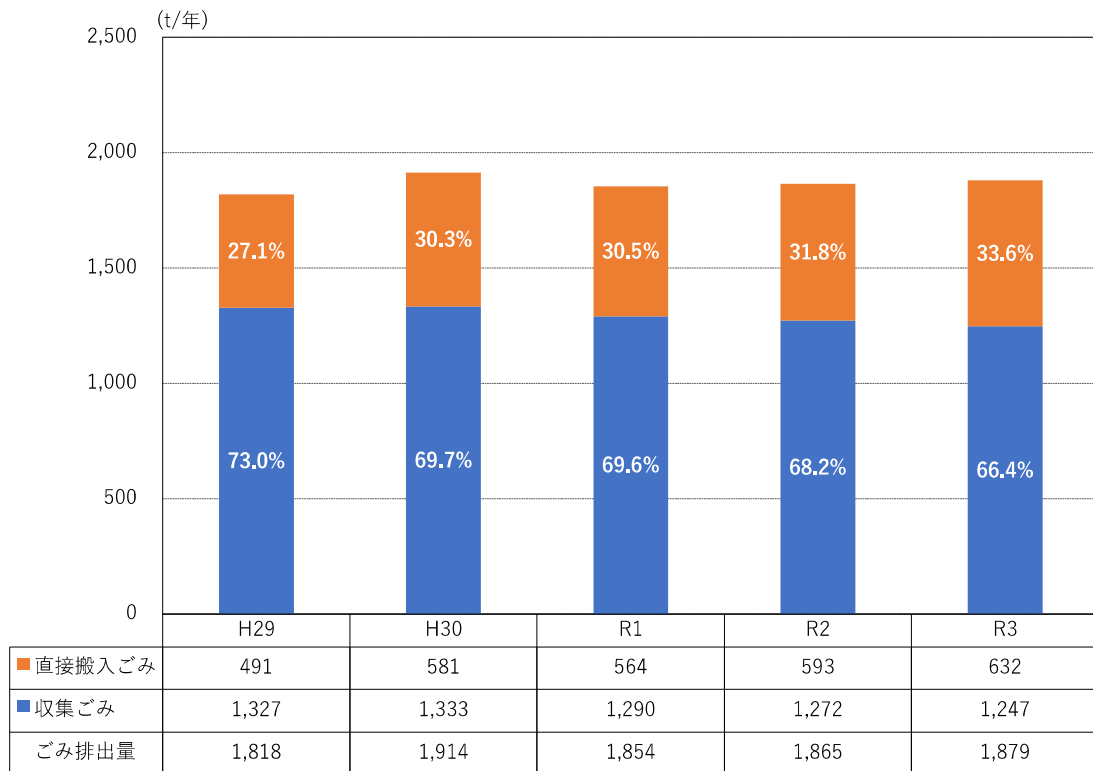
※1：人口は各年度ともに3月31日現在

※2：端数処理のため合計値が100%にならない場合があります。

◆図表 3-2-7 知名町のごみ排出量の経年変化

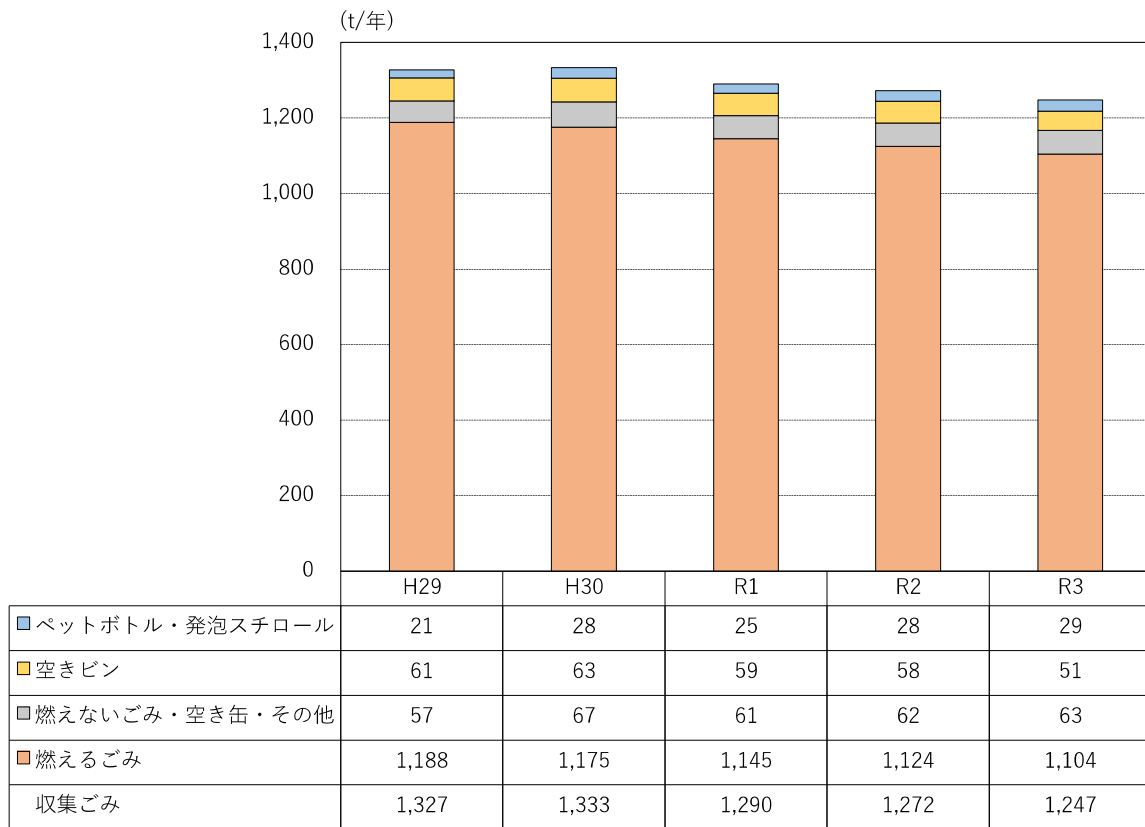


◆図表 3-2-8 知名町のごみ排出量の内訳

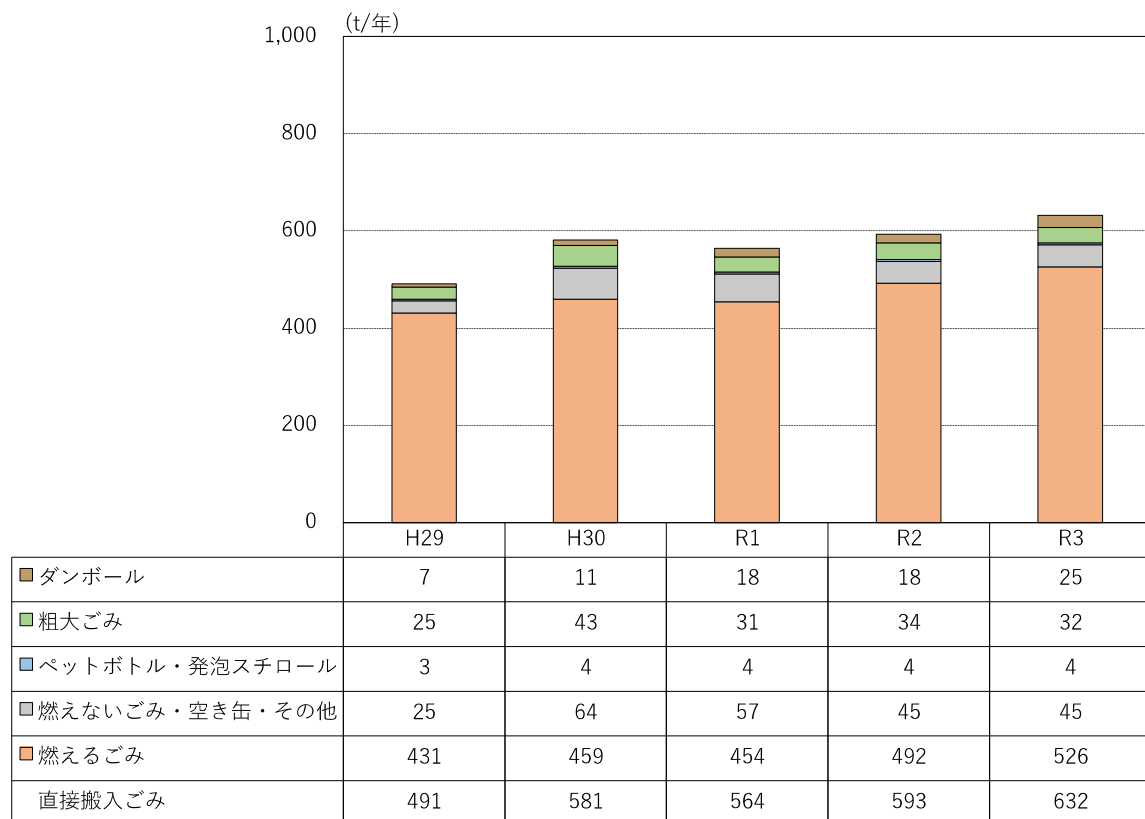


※端数処理のため合計値が100%にならない場合があります。

◆図表 3-2-9 知名町の収集ごみ種類別排出量の推移



◆図表 3-2-10 知名町の直接搬入ごみ種類別排出量の推移





### 3 本圏域におけるごみ排出量

平成29年度～令和3年度における本圏域のごみ排出量の状況を図表3-2-11～16に示します。

#### (1) 収集ごみ

収集ごみは図表3-2-12に示すように、平成30年度は横ばいで推移し、その後は減少傾向となっています。なお、令和3年度は2,488t/年で、平成29年度（2,625t/年）に対して5.2%（-137t/年）の減少となっています。

#### (2) 直接搬入ごみ

直接搬入ごみは図表3-2-12に示すように、平成30年度に増加し、令和元年度に減少した後は増加傾向に転じています。なお、令和3年度は1,508t/年で、平成29年度（1,223t/年）に対して23.3%（+285t/年）の増加となっています。

#### (3) ごみ排出量

ごみ排出量は図表3-2-12に示すように、平成30年度に増加し、令和元年度に減少した後はほぼ横ばいで推移しています。なお、令和3年度は3,996t/年で、平成29年度（3,848t/年）に対して3.8%（+148t/年）の増加となっています。

また、令和3年度におけるごみ排出量に占める割合は収集ごみが62.3%、直接搬入ごみが37.7%で、ごみ排出量に占める燃えるごみは86.5%（収集ごみ：55.6%、直接搬入ごみ：30.9%）となっており、大半を占めています。

#### (4) 町別のごみ排出量

本圏域のごみ排出量の割合は図表3-2-16に示すように、和泊町が53.0%、知名町が47.0%であり、町別の割合は毎年ほぼ一定となっています。

◆図表 3-2-11 本圏域のごみ排出量

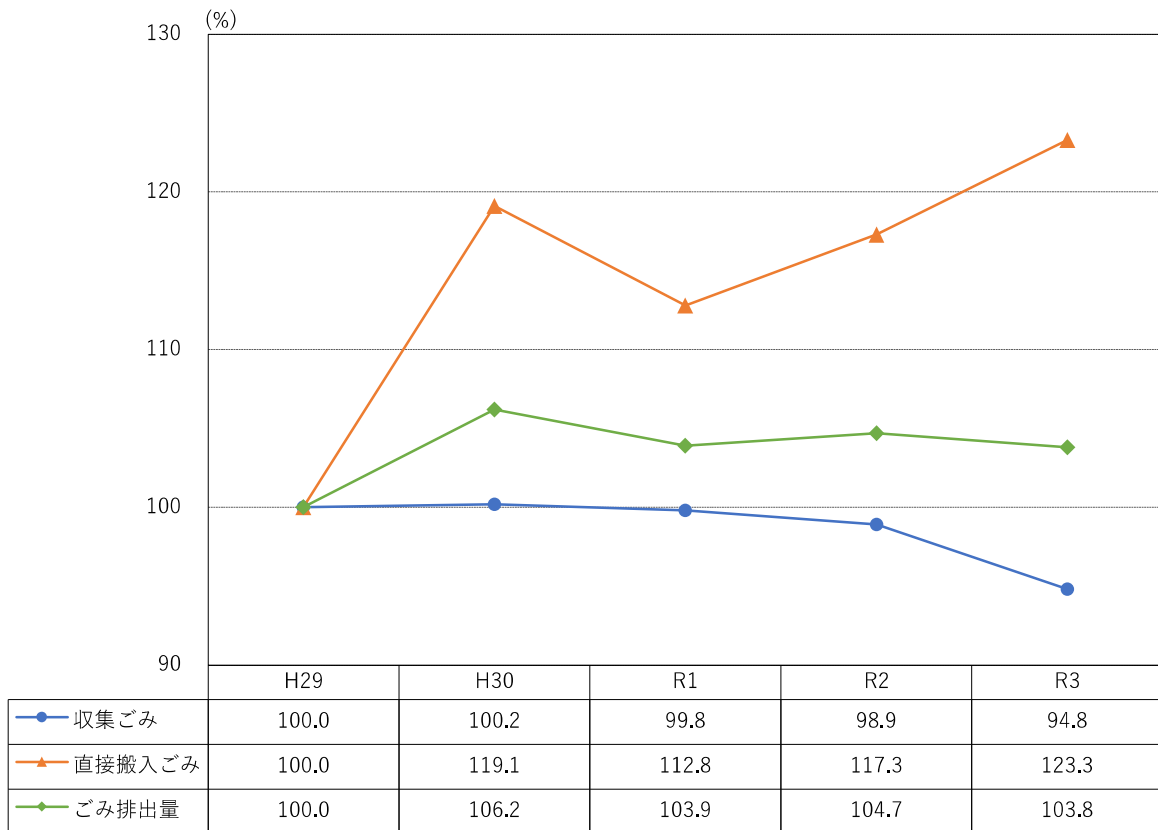
単位：t/年

項目	H29	H30	R1	R2	R3	R3-H29 (増減率)	
人口 (人)	12,557	12,425	12,171	11,996	11,827	▲ 730 ▲ 5.8%	
収集ごみ	燃えるごみ	2,625 (68.1%)	2,630 (64.4%)	2,620 (65.5%)	2,595 (64.4%)	2,488 (62.3%)	▲ 137 ▲ 5.2%
	燃えないごみ・空き缶・その他	2,375 (61.7%)	2,353 (57.6%)	2,324 (58.1%)	2,305 (57.2%)	2,221 (55.6%)	▲ 154 ▲ 6.5%
	空きビン	113 (2.9%)	125 (3.1%)	131 (3.3%)	128 (3.2%)	125 (3.1%)	12 10.6%
	ペットボトル・発泡スチロール	97 (2.5%)	99 (2.4%)	105 (2.6%)	101 (2.5%)	91 (2.3%)	▲ 6 ▲ 6.2%
		40 (1.0%)	53 (1.3%)	60 (1.5%)	61 (1.5%)	51 (1.3%)	11 27.5%
直接搬入ごみ		1,223 (31.8%)	1,456 (35.6%)	1,379 (34.6%)	1,434 (35.5%)	1,508 (37.7%)	285 23.3%
	燃えるごみ	1,069 (27.8%)	1,160 (28.4%)	1,071 (26.8%)	1,137 (28.2%)	1,235 (30.9%)	166 15.5%
	燃えないごみ・空き缶・その他	73 (1.9%)	152 (3.7%)	172 (4.3%)	150 (3.7%)	128 (3.2%)	55 75.3%
	ペットボトル・発泡スチロール	5 (0.1%)	10 (0.2%)	12 (0.3%)	12 (0.3%)	9 (0.2%)	4 80.0%
	粗大ごみ	58 (1.5%)	99 (2.4%)	74 (1.9%)	81 (2.0%)	76 (1.9%)	18 31.0%
ダンボール	18 (0.5%)	35 (0.9%)	50 (1.3%)	54 (1.3%)	60 (1.5%)	42 233.3%	
ごみ排出量	3,848 (99.9%)	4,086 (100.0%)	3,999 (100.1%)	4,029 (99.9%)	3,996 (100.0%)	148 3.8%	

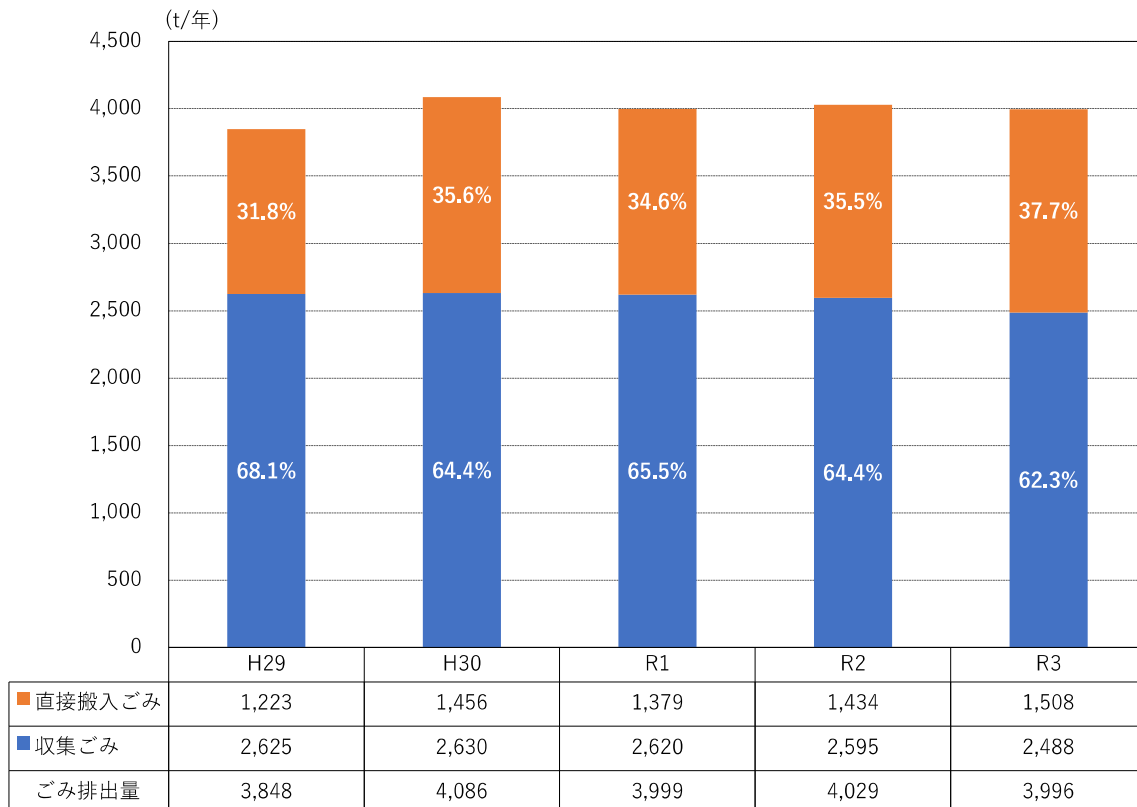
※1：人口は各年度ともに3月31日現在

※2：端数処理のため合計値が100%にならない場合があります。

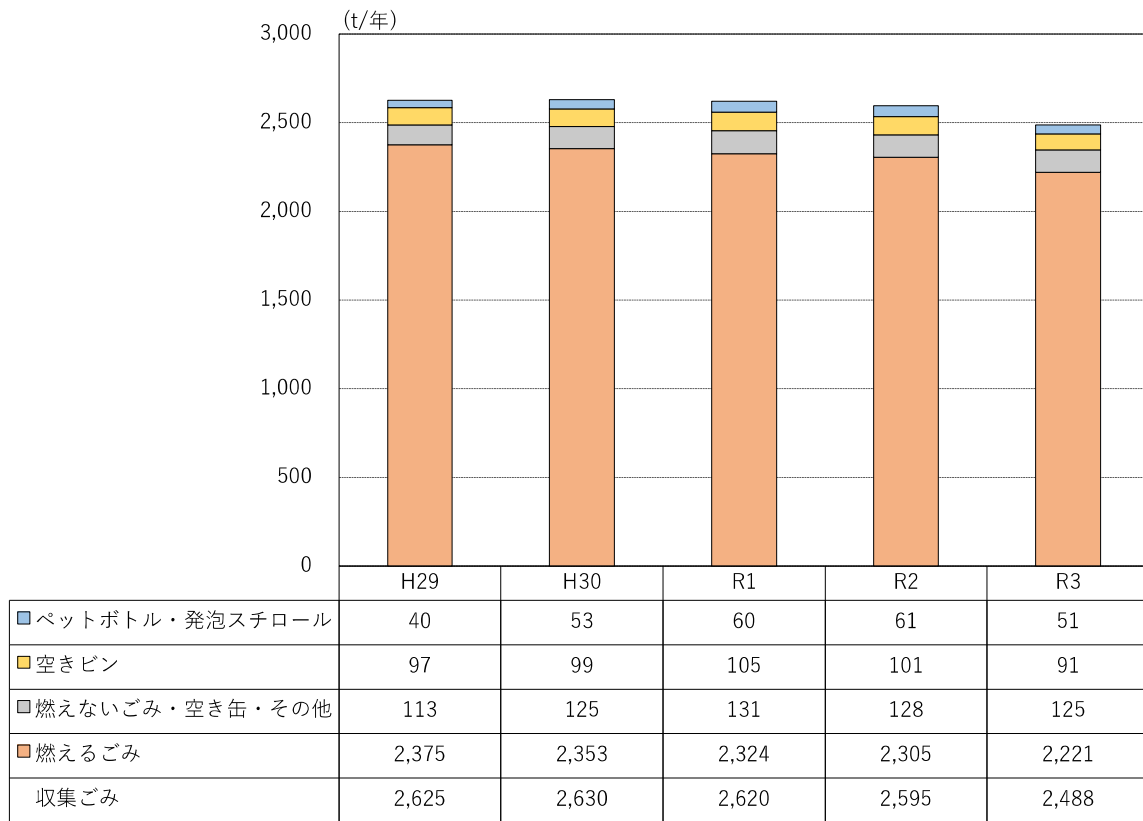
◆図表 3-2-12 本圏域のごみ排出量の経年変化



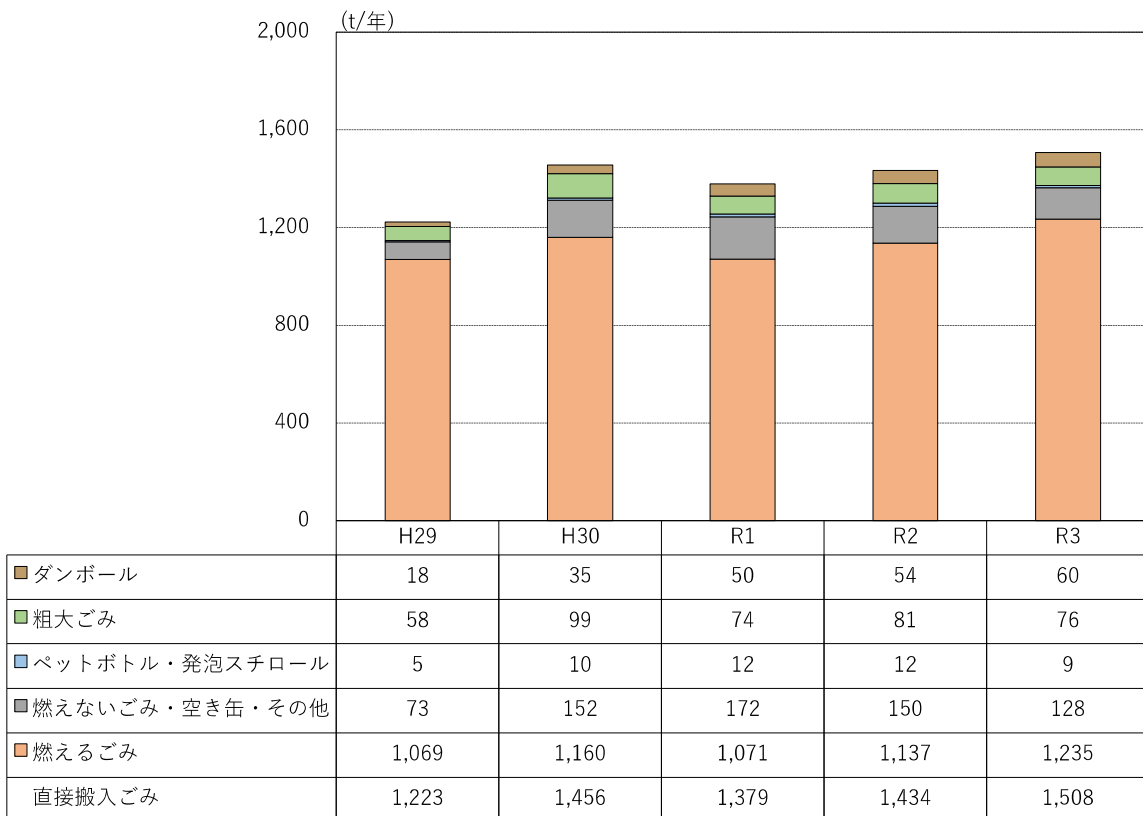
◆図表 3-2-13 本圏域のごみ排出量の内訳



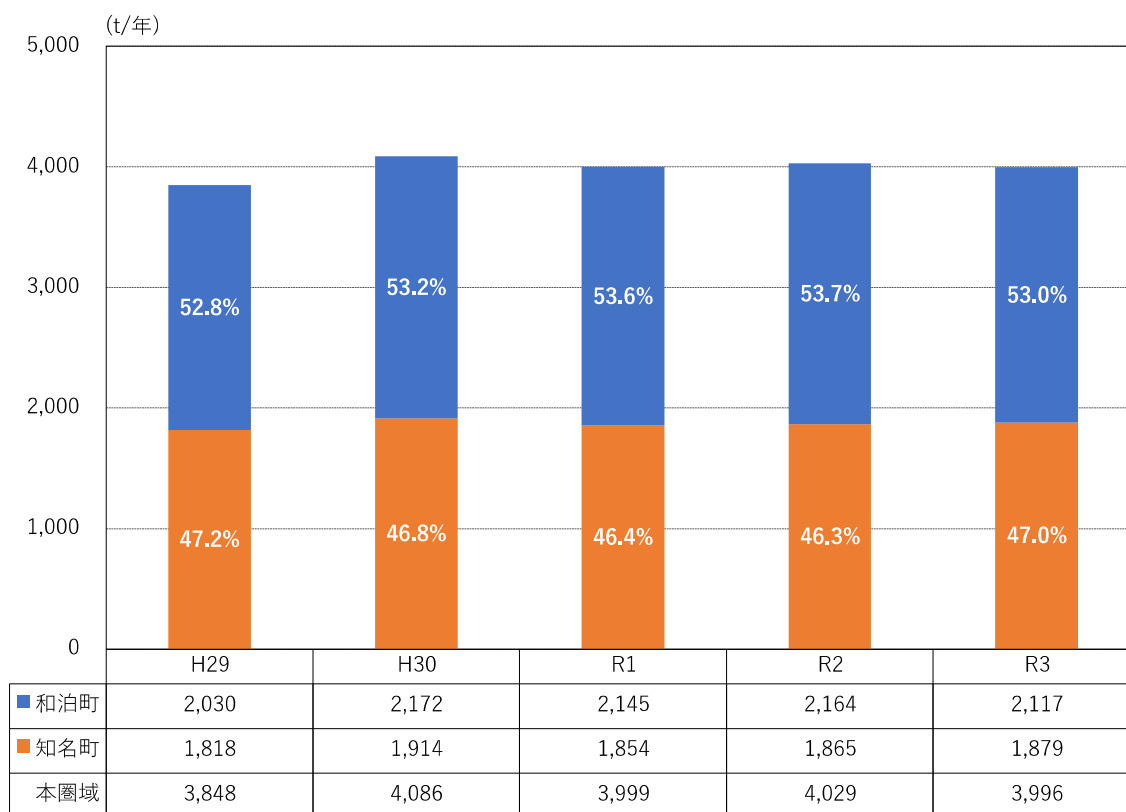
◆図表 3-2-14 本圏域の収集ごみ種類別排出量の推移



◆図表 3-2-15 本圏域の直接搬入ごみ種類別排出量の推移



◆図表 3-2-16 本圏域のごみ排出量の内訳



#### 4 ごみ排出原単位

ごみ排出量は人口の推移に大きく影響されるため、収集ごみであれば一人一日あたりの平均排出量、直接搬入ごみであれば1日あたりの平均排出量を指標とし、これらを「原単位」と呼びます。それぞれの算出方法を以下に示します。

■ 収集ごみ原単位 (g/人・日) = 収集ごみ排出量 (t/年) ÷ 人口 ÷ 365日<sup>※1</sup> × 10<sup>6</sup>

■ 直接搬入ごみ原単位 (g/人・日) = 直接搬入ごみ排出量 (t/年) ÷ 人口 ÷ 365日<sup>※1</sup>

■ ごみ排出原単位 (g/人・日) = ごみ排出量 (t/年) ÷ 人口 ÷ 365日<sup>※1</sup> × 10<sup>6</sup>

※1 : 365日又は366日

##### (1) 和泊町

ア 収集ごみ原単位は図表 3-2-18 に示すように、令和 2 年度までは増加傾向にありましたが、令和 3 年度は減少に転じています。なお、令和 3 年度は 545g/人・日で、平成 29 年度 (538g/人・日) に対して 1.3% (+7g/人・日) の増加となっています。

イ 直接搬入ごみ原単位は図表 3-2-18 に示すように、平成 30 年度に増加し、令和元年度に減少した後は増加傾向に転じています。なお、令和 3 年度は 384g/人・日で、平成 29 年度 (302g/人・日) に対して 27.2% (+82g/人・日) の増加となっています。

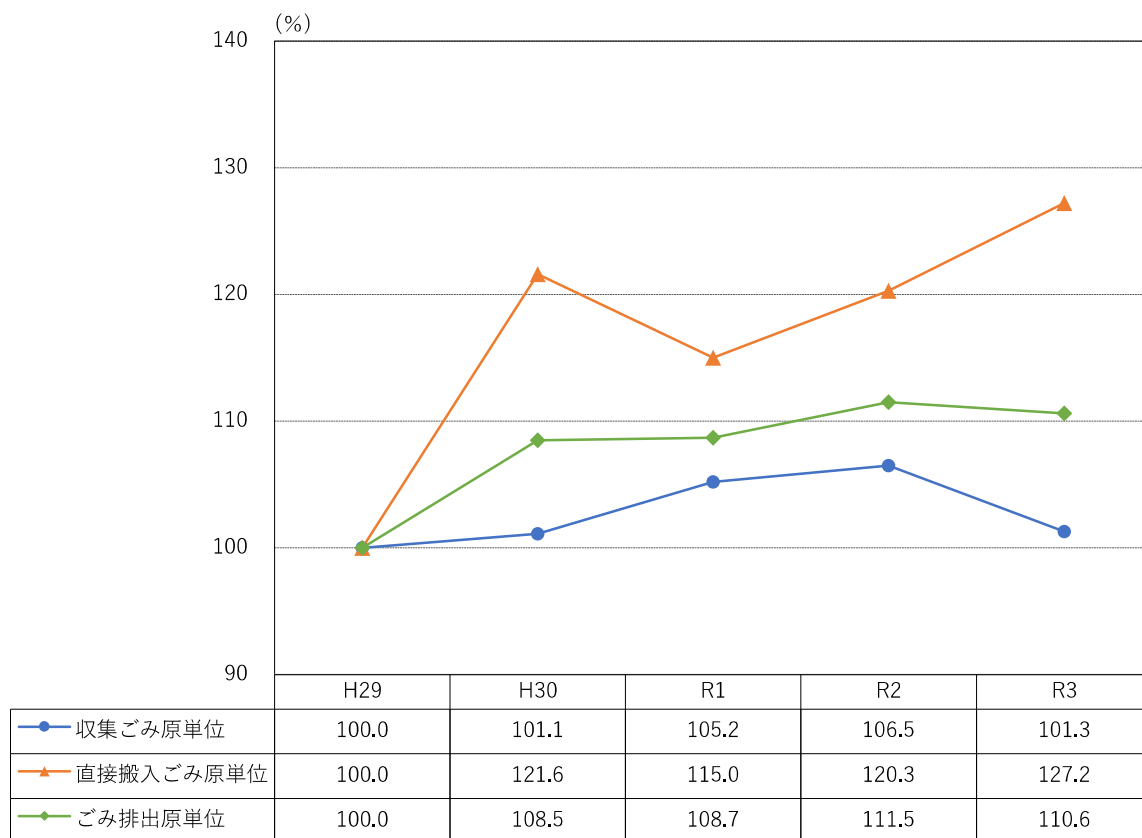
ウ ごみ排出原単位は図表 3-2-18 に示すように、経年的に増加傾向となっています。なお、令和 3 年度は 929g/人・日で、平成 29 年度（840g/人・日）に対して 10.6%（+89g/人・日）の増加となっています。

◆図表 3-2-17 和泊町のごみ排出原単位

項目		H29	H30	R1	R2	R3	R3-H29 (増減率)	
人口 (人)		6,576	6,510	6,384	6,299	6,216	▲ 360	▲ 5.5 %
収集 ごみ原単位 (g/人・日)	燃えるごみ	538	544	566	573	545	7	1.3%
	燃えないごみ・空き缶・その他	494	495	504	513	492	▲ 2	▲ 0.4 %
	空きビン	23	24	29	28	27	4	17.4%
	ペットボトル・発泡スチロール	14	15	19	18	17	3	21.4%
		7	10	14	14	9	2	28.6%
直接搬入 ごみ原単位 (g/人・日)	燃えるごみ	302	367	347	363	384	82	27.2%
	燃えないごみ・空き缶・その他	265	295	264	280	312	47	17.7%
	ペットボトル・発泡スチロール	19	37	49	45	36	17	89.5%
	粗大ごみ	1	2	3	3	2	1	150.0%
	ダンボール	13	23	18	20	19	6	46.2%
ごみ排出量(g/人・日)		4	10	13	15	15	11	275.0%
ごみ排出量(g/人・日)		840	911	913	936	929	89	10.6%

※人口は各年度ともに3月31日現在

◆図表 3-2-18 和泊町のごみ排出原単位の経年変化



## (2) 知名町

ア 収集ごみ原単位は図表 3-2-20 に示すように、横ばいで推移しています。なお、令和 3 年度は 607g/人・日で、平成 29 年度 (606g/人・日) に対して 0.2% (+1g/人・日) の増加となっています。

イ 直接搬入ごみ原単位は図表 3-2-20 に示すように、平成 30 年度に増加し、令和元年度に減少した後は増加傾向に転じています。なお、令和 3 年度は 305g/人・日で、平成 29 年度 (223g/人・日) に対して 36.8% (+82g/人・日) の増加となっています。

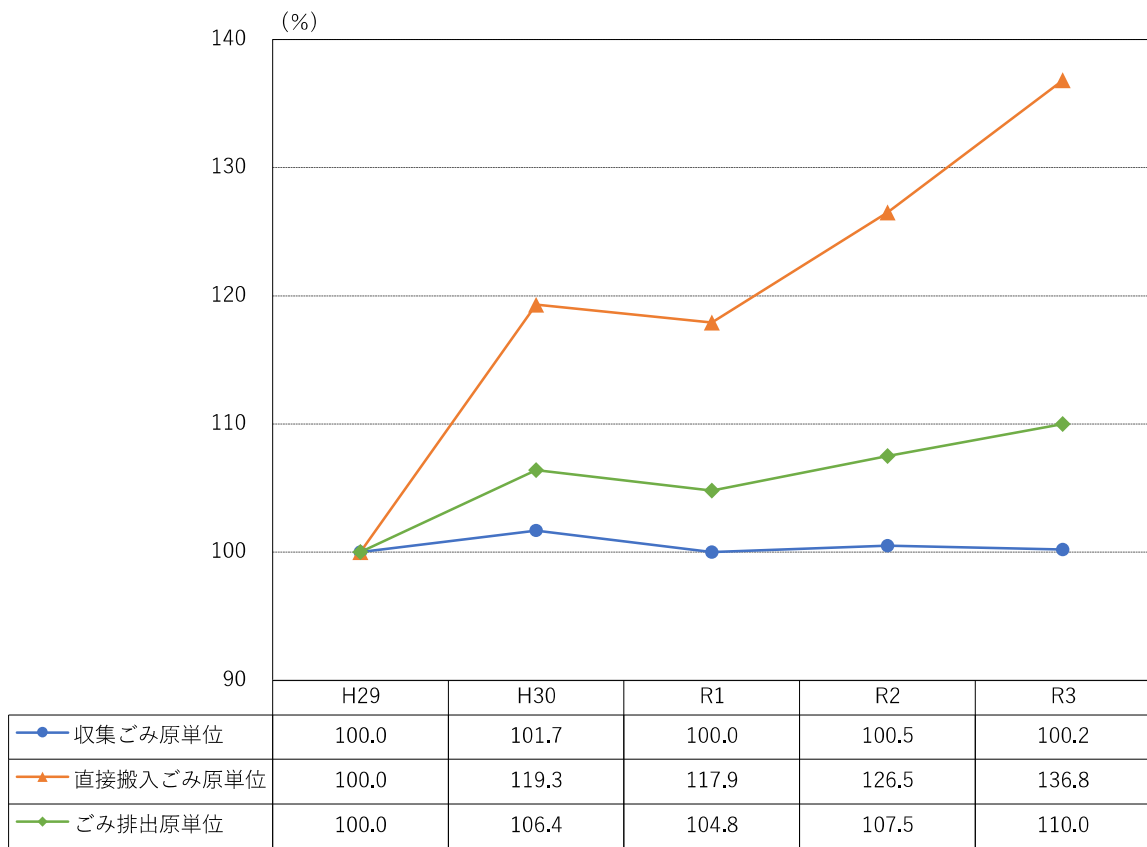
ウ ごみ排出原単位は図表 3-2-20 に示すように、平成 30 年度に増加し、令和元年度に減少した後は増加傾向に転じています。なお、令和 3 年度は 912g/人・日で、平成 29 年度 (829g/人・日) に対して 10.0% (+83g/人・日) の増加となっています。

◆図表 3-2-19 知名町のごみ排出原単位

項目	H29	H30	R1	R2	R3	R3-H29 (増減率)	
人口 (人)	5,981	5,915	5,787	5,697	5,611	▲ 370	▲ 6.2 %
収集 ごみ原単位 (g/人・日)	606	616	606	609	607	1	0.2%
	燃えるごみ	544	544	540	540	539	▲ 5 ▲ 0.9 %
	燃えないごみ・空き缶・その他	26	31	28	29	30	4 15.4%
	空きビン	27	29	27	27	24	▲ 3 ▲ 11.1 %
	ペットボトル・発泡スチロール	9	12	11	13	14	5 55.6%
直接搬入 ごみ原単位 (g/人・日)	223	266	263	282	305	82	36.8%
	燃えるごみ	197	212	214	236	256	59 29.9%
	燃えないごみ・空き缶・その他	11	29	26	21	21	10 90.9%
	ペットボトル・発泡スチロール	1	1	1	1	1	0 0.0%
	粗大ごみ	11	19	14	16	15	4 36.4%
ダンボール	3	5	8	8	12	9 300.0%	
ごみ排出量(g/人・日)	829	882	869	891	912	83	10.0%

※人口は各年度ともに3月31日現在

◆図表 3-2-20 知名町のごみ排出原単位の経年変化



### (3) 本圏域

ア 収集ごみ原単位は図表 3-2-22 に示すように、令和 2 年度までは増加傾向にありましたが、令和 3 年度は減少に転じています。なお、令和 3 年度は 574g/人・日で、平成 29 年度 (571g/人・日) に対して 0.5% (+3g/人・日) の増加となっています。

イ 直接搬入ごみ原単位は図表 3-2-22 に示すように、平成 30 年度に増加し、令和元年度に減少した後は増加傾向に転じています。なお、令和 3 年度は 347g/人・日で、平成 29 年度 (264g/人・日) に対して 31.4% (+83g/人・日) の増加となっています。

ウ ごみ排出原単位は図表 3-2-22 に示すように、経年的に増加傾向となっています。なお、令和 3 年度は 921g/人・日で、平成 29 年度 (835g/人・日) に対して 10.3% (+86g/人・日) の増加となっています。

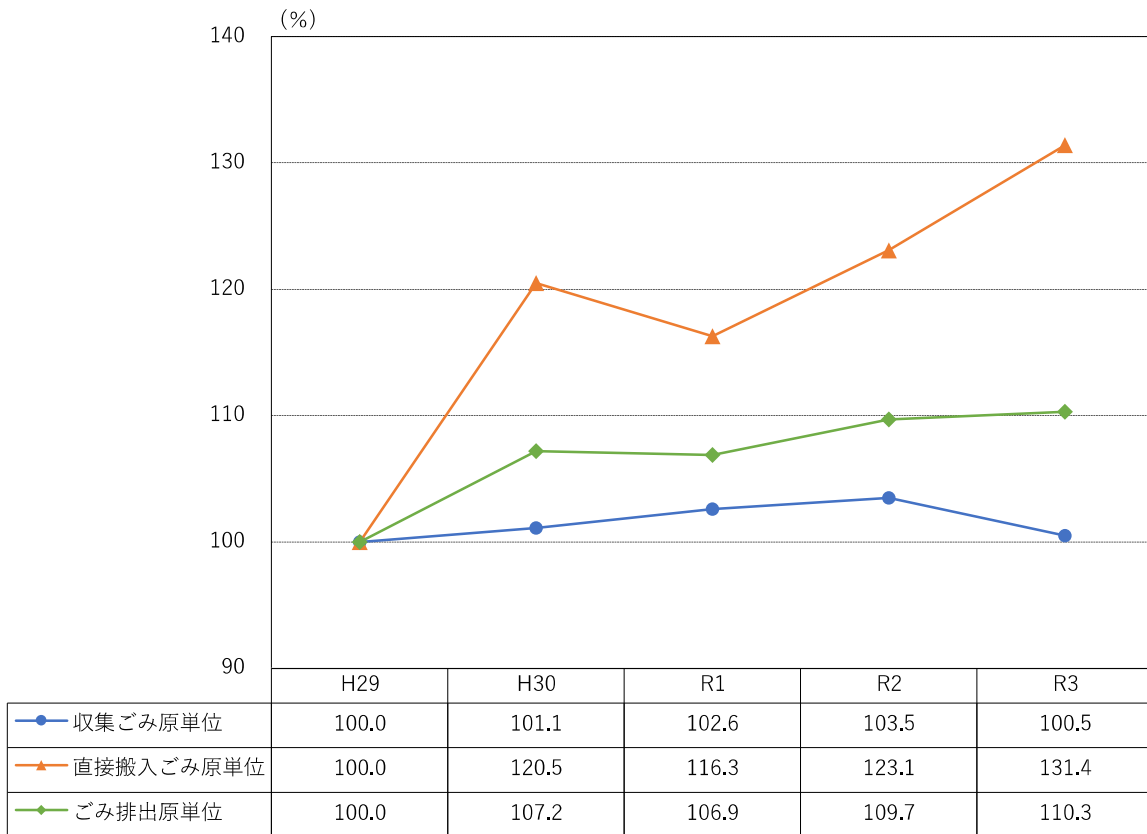
◆図表 3-2-21 本圏域のごみ排出原単位

項目		H29	H30	R1	R2	R3	R3-H29 (増減率)	
人口 (人)		12,557	12,425	12,171	11,996	11,827	▲ 730	▲ 5.8%
収集 ごみ原単位 (g/人・日)		571	577	586	591	574	3	0.5%
	燃えるごみ	518	518	521	526	514	▲ 4	▲ 0.8%
	燃えないごみ・空き缶・その他	24	27	29	29	28	4	16.7%
	空きビン	21	21	23	23	21	0	0.0
	ペットボトル・発泡スチロール	8	11	13	13	11	3	37.5%
直接搬入 ごみ原単位 (g/人・日)		264	318	307	325	347	83	31.4%
	燃えるごみ	233	255	240	259	286	53	22.7%
	燃えないごみ・空き缶・その他	15	33	38	34	29	14	93.3%
	ペットボトル・発泡スチロール	1	2	2	2	2	1	100.0%
	粗大ごみ	12	21	16	18	17	5	41.7%
	ダンボール	3	7	11	12	13	10	333.3%
ごみ排出量(g/人・日)		835	895	893	916	921	86	10.3%

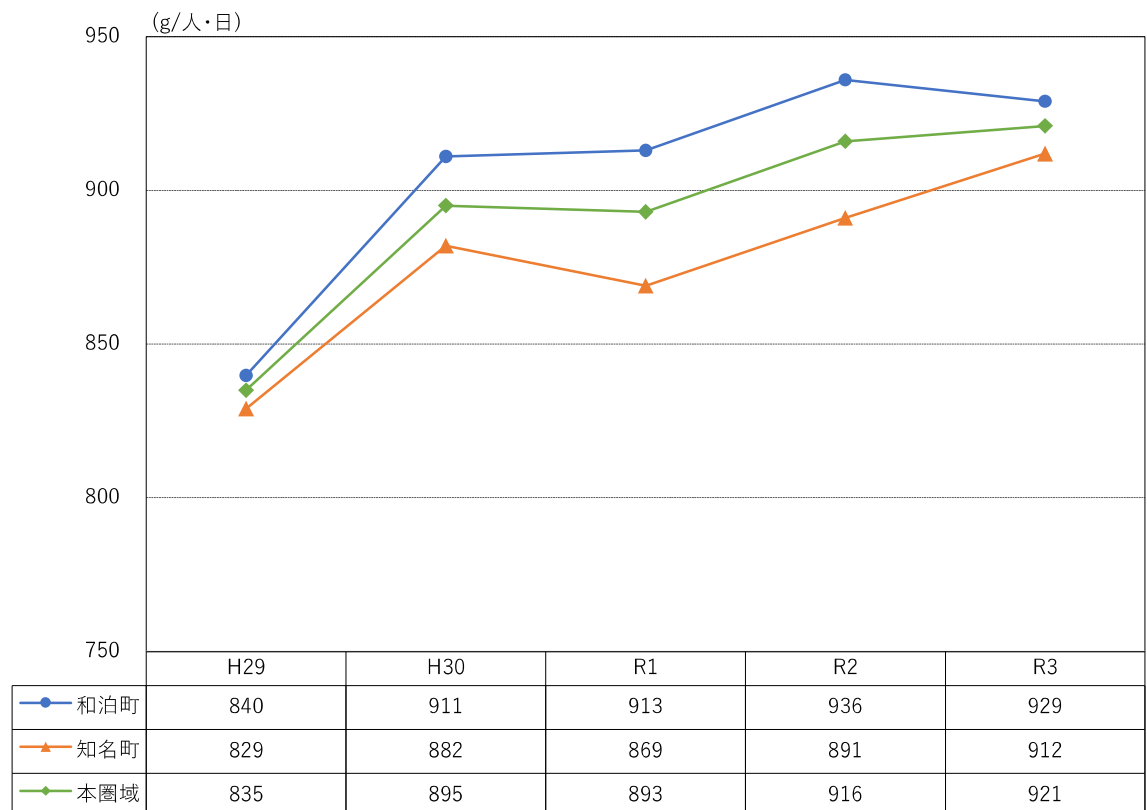
※人口は各年度ともに3月31日現在



◆図表 3-2-22 本圏域のごみ排出原単位の経年変化



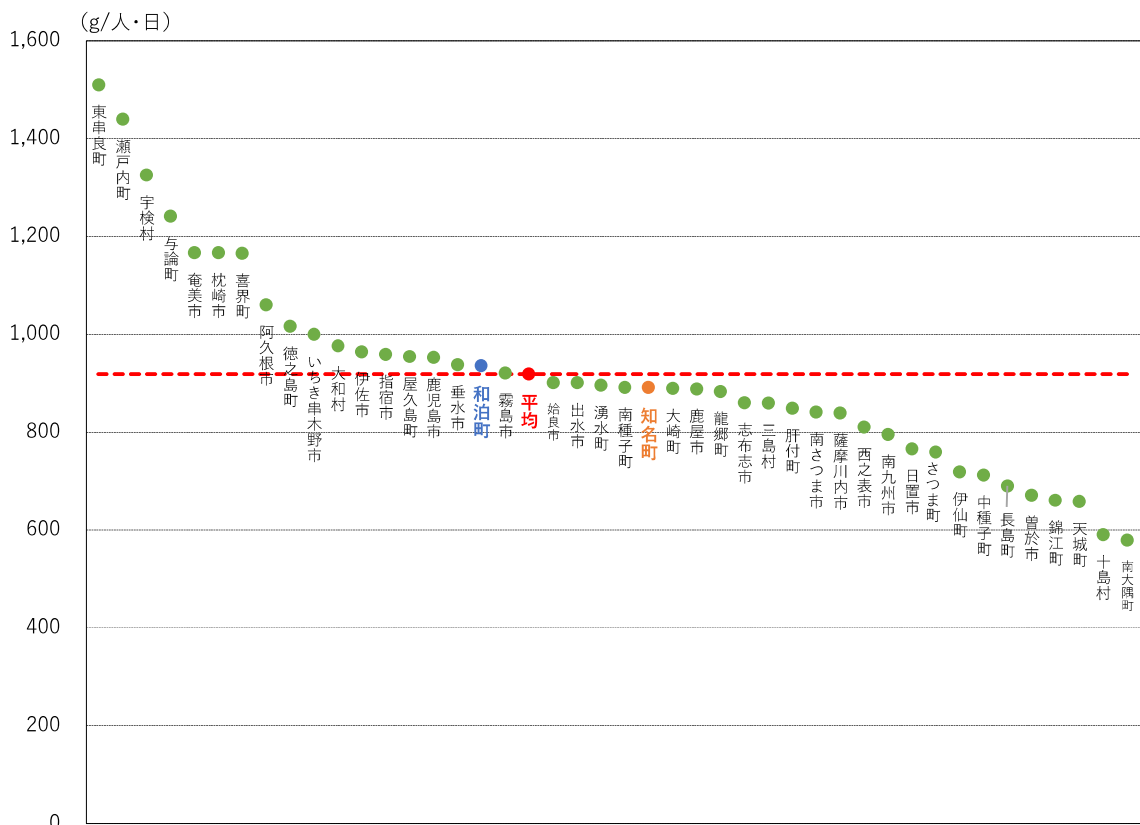
◆図表 3-2-23 本圏域（町別）のごみ排出原単位の推移



#### (4) 鹿児島県内の各市町村

環境省より公表されている「一般廃棄物処理実態調査結果（令和2年度実績）」を基に鹿児島県内の各市町村のごみ排出原単位を比較すると、知名町は鹿児島県平均を下回っていますが、和泊町は鹿児島県平均を上回っています。

◆図表 3-2-24 鹿児島県市町村のごみ排出原単位の比較



※和泊町及び知名町は本組合の統計資料（ごみ搬入量集計表）のごみ排出量（令和2年度実績）を採用

出典：「一般廃棄物処理実態調査結果」（R2年度実績）

### 3-3 ごみ質の性状

沖永良部クリーンセンター（ごみ焼却施設）にて実施したごみ質の測定実績（平成29年度～令和3年度）を図表3-3-1～7に示します。

#### 1 ごみ質の現況

##### （1）ごみ組成

ごみの組成は図表3-3-2に示すように、「紙・布類」が最も多く46.3～71.0%の範囲にあります。また、令和3年度は「紙・布類」が最も多く、次いで「合成樹脂類」の順となっています。

燃えるごみの組成構成比（過去5年間平均値）は図表3-3-3に示すように、紙・布類の割合が62.5%で最も高く、次いで合成樹脂類が21.7%となっており、この2種類の合計が全体の8割近くを占めています。

##### （2）ごみ三成分

ごみの三成分は図表3-3-4に示すように、水分が34.7～52.5%、可燃物が45.2～58.4%、灰分が2.3～11.8%となっています。

ごみの三成分の構成比（平均値）は図表3-3-5に示すように、水分が41.3%、可燃分が52.1%、灰分が6.7%となっており、本施設の計画条件（水分：23.0～54.0%、灰分11.0～15.0%、可燃物35.0～62.0%）と比較すると灰分が若干低いものの、概ね計画条件の範囲内となっています。

##### （3）低位発熱量及び単位容積重量

###### ア 低位発熱量

低位発熱量の推移は図表3-3-6に示すように、R2②及びR3①が他の測定値（H29①～R2①及びR3②、以下、「他の測定値」という。）を大きく下回っていたため、以下に要因等を分けて記載します。

（ア）他の測定値の低位発熱量は8,860～10,500kJ/kgであり、概ね基準ごみの計画条件（9,380kJ/kg）と高質ごみの計画条件（11,720）の中間程度で推移しています。

（イ）R2②及びR3①の低位発熱量は7,310及び7,940kJ/kgであり、他の測定値（最小値～最大値：8,860～10,500kJ/kg）と比べると大きく減少しています。この要因として、R2②ではごみ質の水分が52.5%であり、他の測定値の過去5年間平均値（39.5%）と比べると水分量が13.0%多く、また、R2②及びR3①ではごみ質の可燃分（R2②：45.2%、R3①：45.6%）が他の測定値の過去5年間平均値（53.8%）と比べ、可燃分が8.2～8.6%少ないためです。

###### イ 単位容積重量

単位容積重量は図表3-3-7に示すように、124～168kg/m<sup>3</sup>の範囲にあります。なお、H29①～H30①及びR3②は159～168kg/m<sup>3</sup>であり、過去5年間の中でも単位容積重量が大きくなっています。この要因としては、一般的には水分、ガラス及び土砂などの不燃物が

多く含まれているためだと考えられます。また、H30②及びR2①は126及び124kg/m<sup>3</sup>であり、過去5年間の中でも単位容積重量が小さくなっています。この要因としては、一般的には紙類やプラスチック類の含有量が多く含まれているためだと考えられます。

◆図表 3-3-1 ごみ質の測定実績（その1）

項 目		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		①	②	①	②	①	②	①	②
		7月11日	1月19日	9月4日	3月29日	8月20日	1月21日	7月15日	1月14日
種 類 組 成	紙・布類 (%)	71.0	69.2	60.9	68.5	64.5	46.3	64.4	53.9
	合成樹脂類 (%)	21.6	15.9	31.8	16.8	15.1	14.2	27.8	29.2
	木・竹類 (%)	3.4	1.0	0.7	2.8	1.5	8.6	2.9	9.4
	厨芥類 (%)	3.7	12.5	5.7	3.7	18.0	28.4	4.8	7.1
	不燃物類 (%)	0.0	1.0	0.7	7.2	0.0	2.3	0.0	0.0
	その他 (%)	0.3	0.4	0.2	1.0	0.9	0.2	0.1	0.4
三 成 分	水分 (%)	46.3	40.1	42.0	34.7	39.2	35.5	41.8	52.5
	可燃分 (%)	50.1	53.0	55.5	53.5	50.4	57.2	52.1	45.2
	灰分 (%)	3.6	6.9	2.5	11.8	10.4	7.3	6.1	2.3
低位発熱量 (kJ/kg)		8,860	10,120	9,660	10,500	9,370	10,080	9,700	7,310
単位容積重量 (kg/m <sup>3</sup> )		168	159	162	126	135	145	124	145
項 目		令和3年度		最小値	最大値	平均値	計画条件		
		①	②				低湿	基準	高質
		10月21日	3月3日						
種 類 組 成	紙・布類 (%)	69.6	56.8	46.3	71.0	62.5	-	-	-
	合成樹脂類 (%)	16.1	28.9	14.2	31.8	21.7	-	-	-
	木・竹類 (%)	8.7	4.6	0.7	9.4	4.4	-	-	-
	厨芥類 (%)	4.0	7.6	3.7	28.4	9.6	-	-	-
	不燃物類 (%)	1.3	0.9	0.0	7.2	1.3	-	-	-
	その他 (%)	0.3	1.2	0.1	1.2	0.5	-	-	-
三 成 分	水分 (%)	44.3	36.1	34.7	52.5	41.3	54	39	23
	可燃分 (%)	45.6	58.4	45.2	58.4	52.1	35	48	62
	灰分 (%)	10.1	5.5	2.3	11.8	6.7	11	13	15
低位発熱量 (kJ/kg)		7,940	9,920	7,310	10,500	9,346	4,690	9,380	11,720
単位容積重量 (kg/m <sup>3</sup> )		148	164	124	168	148	322	254	223

◆図表 3-3-1 ごみ質の測定実績（その2）（他の測定値：R2②及びR3①を除く）

項 目 (R2②及びR3①を除く)		最小値	最大値	平均値	計画条件		
					低湿	基準	高質
三 成 分	水分 (%)	34.7	46.3	39.5	54.0	39.0	23.0
	可燃分 (%)	50.1	58.4	53.8	35.0	48.0	62.0
	灰分 (%)	2.5	11.8	6.8	11.0	13.0	15.0
低位発熱量 (kJ/kg)		8,860	10,500	9,776	4,690	9,380	11,720